学習院桜友会「櫻友クラブ」の会員誌

Oblige

[オブリージ]
Summer No.30
2000.7.25

特集　豊かな日常のために

散歩な文化論

聞き書き　この人の「わが町」へ!

三郷市長・美田長彦

人物クローズアップ「学習院と私」

バレリーナ・佐藤真左美

学校法人シリーズ　母校を訪ねる

学習院女子大学

[桜友会だより]

職域桜友会・輔仁会サークル・地域桜友会

櫻友クラブ主催のイベント案内

人がつくる、人の場所。
そこには落ち着ける空間があります。そこには働きやすい環境があります。
そして、そこには豊かな時間が流れています。
『人がつくる、人の場所。』
これからもずっと大切に持ち続けたい想いです。
人がつくる、人の場所。
SHIMIZU CORPORATION
清水建設

生命（いのち）の場所

Circle of Life

第7回

地球の上でいろいろな事が無数に起こっている。自分の身の回りの出来事だけを考えても、その全てを把握することはできない。我々にできるのは、少しだけ自分の気持ちを傾けてひとつひとつ納得するしかない。

写真／渡辺 潔

北海道から茨城県あたり、日本海側は島根県あたりまでの海岸線に分布するハマナス。花期は6～7月。写真は、砂の上に現れたばかりの小さなハマナス

「ハマナス」

海辺の"アイドル系"の本名はハマナシ。ハマナスは実は東北なまりなのです。

ロマンチックな海辺の光景をうたったり語ったりする場合に、しばしばそのシーンを盛り上げる役割を与えられるハマナス。その実体は、バラ科の落葉低木で、高さは1m～1.5mほど。茎には刺が密生している。よく見ると、刺の表面にも刺の子供のような毛がやはり密生している。茎は刺だらけ、毛だらけという感じだが、6～7月に咲く花の強い芳香がハマナスを海辺のアイドル系に位置づける大きな要因となっている。どこにでもあるようなごくありきたりな海辺を歩いているとき、なにげなく、潮の香りの中にひときわいい香りを発見する。そんな意外性のある出会いの積み重ねがハマナスの名を一般に広める助けとなったのかもしれない。ところで、このハマナス、浜の「茄子」ではない。浜の「梨」、ハマナシが正式名。ハマナスの名は東北地方のなまりが一般化したもので、実は俗称なのだ。ウ～ン、こうしてみるとアイドル系でもどことなく演歌が入っているのかな？

Oblige [オブリージ]
Summer No.30
2000.7.25

CONTENTS

COVER
長野県の木曽谷の南部に位置する大桑村。村内にある阿寺渓谷の清流が霧っている。波立ち、渦を巻き、速い流れが岩をけずる。水蒸気、雲、雨と姿を変えながら、今、ここでさらに力を増しつつある。
Photographer/Kiyoshi Watanabe

特集　豊かな日常のために
散歩な文化論……6

ノーブレス・オブリージ宣言 vol.16
守屋駿二（和歌山大学長）……4

聞き書き　この人の「わが町」へ！
美田長彦（埼玉県三郷市長）……14

人物クローズアップ「学習院と私」vol.8
佐藤真左美（バレリーナ）……33

■生命の場所　第7回
「ハマナス」写真／渡辺　潔……1

■伝統のニッポンへ！[7]
越前漆器＆若狭塗……42

■食卓の四季 [11]
アボカド　江上種英……48

学校法人シリーズ　母校を訪ねる
学習院女子大学……37

■桜友会だより
職域桜友会／オリンパスグループ……18
輔仁会サークル／山岳部20　写真部22
地域桜友会／長野桜友会……30

目白キャンパス・グラフ……45

OBLIGE CLUB●櫻友クラブからのお知らせ
櫻友クラブ主催「東京証券取引所の見学会」ご案内……24

OBLIGE伝言板●会員からのお便り紹介コーナー……32

本文デザイン　加藤正博
SPECIAL THANKS
KOUSAI-SHUPPANSHA

本誌掲載の写真・イラスト・記事の無断転載および複写を禁じます。

国立大学と独立行政法人。

L'EDUCATION DU JAPON

守屋駿二（昭34仏）
和歌山大学長

去る五月二十六日、文部大臣は全国の国立大学長を招集して、国立大学を独立行政法人にすることを正式に表明しました。これによっておそらく平成十五年には国立大学が法人化することになります。と申し上げても私学である学習院桜友会の皆様にはおそらく関心を持って頂けないでしょうし、何故このようなところに国立大学の事を書くのかと怪訝に思われるかも知れません。しかし少子化社会の著しい進展によって、計算上では八年後には大学進学希望者は全て進学できる、所謂大学全入時代に突入することになり、国公私立を含めて、高等教育の在り方が問題になっている現在、国立大学がどのような状況に置かれているのかを知って頂くことも必要であろうと思いますし、有馬朗人元文部大臣は私学も独立行政法人化（独法化）したほうがよいと述べておられることもあり、私学関係者の方にもまんざら関わりのない話ではありませんので敢えて書くことにします。

ところで独立行政法人とは一体どういうものかと言いますと、これは三年前の行政改革会議で省庁の在り方についての検討の中で出てきたもので、行政機能のスリム化の一つとして、行政機能を企画・立案部門と業務部門に分離して、業務部門を独立行政法人にするという、イギリスのサッチャー元首相が行ったエージェンシーに倣ったもので、民営化することが難しく、公共上の見地から確実に実施される必要がある事業を主たる対象とする制度です。

当初独法化するのは、各省庁に置かれている試験研究機関、博物館、美術館、国立病院等で、国立大学については、長期的視野に立って検討を行うべきとなっていました。それが一年も経ず、国立大学を独法化する動きが急速に出てきたのは、国家公務員の定員削減の問題が大きく関わってきたからです。

平成十年八月、亡くなられた小渕前首相が所信表明演説の中で、今後十年の間に国家公務員を二十パーセント削減することを表明したのを受けて、翌年四月、独法化によって公務員を二十五パーセント削減することが閣議決定されました。現在国家公務員の数は全部で八十五万人ですからその二十五パーセントというと約二十二万人になります。一方国立学校関係（国立大学・大学共同利用機関等）の教職員数は十三万五千人ですから、これを独法化すれば、定削の六十パーセントは目標を達成することになります。つまり国立大学の独法化は二十一世紀の高等教育をどうするかという視点に立ったものではなく、行政改革の一環として構想されたものです。

そして昨年七月、独立行政法人通則法が国会の審議を経て成立しました。この法律の要点をざっと紹介しますと、まず法人の長（大学では学長）は主務大臣（文部科学大臣）が任命、主務大臣は三年から五年の期間を設定して「中期目標」を法人に提示、目標の達成度を各省庁に置かれる「評価委員会」で評価し、評価の内容に応じて運営交付金を交付、さらに外部資金の導入等により経営効率を上げることなどとなっています。

これに対して全国の国立大学はこぞって反対しました。その第一の理由は、もしこの法律がそのまま国立大学に適用されると、教育研究が行政主導型で行われることになり、学問の自由が侵害されることになるからです。学問の自由というと、往々にして大学自治即ち教授会自治と限定して解釈され（大学人の中にも多い）、大学の閉鎖性を示すものとして受け取られがちですが、本来学問の自由というのは、時の政治イデオロギーに支配されずに自由に学問ができるように憲法で保障されているものです。

第二の理由は、教育研究の目標を三年から五年に限定されると、たとえば橋を架けたり道路を作ったりといった短期間で目に見える成果のみが評価され、長い時間をかけなければならない研究や採算の取れない基礎的研究が軽視される。つまり儲けの少ない非効率的な研究分野が淘汰されかねないということに危惧を抱いたからです。

その他いくつも理由はありますが、おそら

Noblesse

守屋駿二（もりや・しゅんじ）
昭和11年12月28日東京生まれ。昭和34年３月学習院大学文学部フランス文学科卒業。同38年３月東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。同年４月和歌山大学学芸学部助手。同大学講師、助教授を経て、昭和52年４月教育学部教授。同58年４月教育学部長（同60年３月まで）、平成３年４月教育学部長再任（同５年３月まで）。同８年８月学長に就任、現在に至る。昭和63年11月には「ボワロー「諷刺詩」訳・註解」（岩波書店）により、第25回日本翻訳文化賞受賞。

©世界文化フォト［木村光利］

く私学の経営に携わっておられる方々を始めとして私学関係者には、国立大学のこうした主張を理解してはいただけないだろうと思います。税金で賄われているくせに、何を勝手なことをと思われるかも知れません。しかし税金で賄われているからこそ、安い授業料で貧しい家庭の子弟にも高等教育を受ける機会を与えることができ、また私学では割の合わない、地味なそれでいて学問の裾野を広げるためになくてはならない分野の研究もできるというものです。

学問は採算性を念頭に置いて行うものではない筈です。私は文学部しかもお金儲けには全く縁のない仏文出身ですから特にそう思うのかもしれませんが、地道な研究の積み重ねが、その結果として採算の取れる成果を生み出したり、文化の向上に寄与することになるものです。それに企業論理を適用しようとする独法化がわが国の学問の発展に寄与するものかどうか、大いに問題のあるところです。

どうもこの雑誌には相応しくない少々堅苦しい文章を書き連ねてしまいました。一国立大学の長として独法化問題が常に頭を離れませんので、こんなことになってしまいました。ご容赦の程よろしくお願い致します。

国公私立を含め、21世紀の日本の大学はどうなるのだろうか。どう在るべきなのだろうか。（写真／学習院大学北１号館）

特集■豊かな日常のために

散歩な文化論

SAMPOLOGY

テレビ番組の特集でも散歩が取り上げられるなど、
なぜか散歩が静かなブームである。しかし、なぜ散歩なのか？
健康には良さそうだし、とりあえずの気分転換にはなる。しかも、
手軽にできて、お金もかからない。ちょっと地味めな感じもするが、
何となく気になる存在ではある。そんな散歩のことを少し考えてみよう。

文／善田紫紺（昭57史）
写真／渡辺　潔
（東京・新宿御苑にて）

散歩をしながらささやかなものに対する視線をきたえる！

一体何だコレは!?　という驚きとの出会いも散歩で

歩くことは体にいいらしい。

「歩く」と「散歩」⇩「散歩」という言葉は奈良時代からあった！

近年「歩く」ことが見直されている。天気の良い休日になると、それらしき服装をした中高年のハイカーたちが、郊外へ向かう電車やバス停にあふれている。ハイキングやウォーキングをテーマにした様々なイベントも各地で開催されているし、本屋や図書館の書棚には専用のコーナーがあって、山歩きやウォーキングのガイドブックが所狭しと並んでいる。

それらによると、歩くことは体に良い。まずは、脂肪を減らすための一番手軽な「有酸素運動」ではないかということだ。エアロビクスダンスやジョギングだと、運動しなれていない人には体への負担が大きいが、それがなく、長時間続けられる。ただ歩く場合、脂肪が燃え始めるには20分ほどかかるので、効果を上げるには速めのスピードで歩かなければならない。また、歩くことは糖尿病など成人病の予防になる。歩くと血液中のブドウ糖と肝臓で作られるブドウ糖が消費されるので血液中の血糖値が下がるからである。

さらに、森や山野を歩くといわゆる森林浴の効果も得られる。森の木から発散されるフィトンチッドが血液を浄化し、新陳代謝を盛んにするというのである。

このように体にいいことだらけの「歩く」だが、このブームは果たしていつときの流行なのだろうか。何故、いまになって人は急に歩き始めたのだろうか。世界一周が数時間で出来てしまう時代にあって、もはや歩くことが移動の手段であるわけない。あくまで楽しみで人は歩いているのである。

それでは、人はいったいいつ頃から歩くことを趣味とするようになったのだろう。それは歴史とともにどのように形を変えてきたのだろうか、人々はまたその中にどんな意味を見いだしてきたのだろうか。

ウォーキングやハイキングというのは日本では、最近使われ始めた言葉で、古来、ただ歩くことといえば「散歩」がそれに当たるものだった。ただ、散歩とウォーキングでは、そのもともとの意味合いが少し違っている。「散歩」の意味を辞書で引くと「あてもなく歩くこと、散策」とある。これが、ウォーキングやハイキングとなると「歩くこと、競歩」や「徒歩旅行、自然に親しむ目的で山野や海辺を歩き回ること」となる。つまり、散歩がほかの歩き方と決定的に違うのは、あてのなさとか目的のなさというところなのだ。

ところで「散歩」のもともとの意味は、今使われているものとは、まるで違っていた。日本で「散歩」という言葉が使われだしたのは古く、奈良時代のことである。

この時代、天皇や権力者たちが不老長寿の薬として使っていたものに、石薬（鉱物薬）があった。その石薬の製剤の中に、練乳石や硫黄を処方した五石散というのがあり、これには、体の強壮作用があると言われていた。

五石散は服用すると「散発」という効果によってすぐに体が温まったが、この「散発」が少ないと、毒が体の中にこもって害になった。それで人々は散発を早めるために、五石散を飲んだ後で歩き回った。それを「散歩」といい、現在に至っていったのである。

身の回りが大事。

超個人的なものである散歩の背景には、身の回りのことを
大切にするという思想が存在するのかもしれない。

無目的なぶらぶら歩きはハシタナイ？

日本の散歩の歴史⇩日本の武士で初めて町をぶらぶら散歩したのは勝海舟だった。

日本ではどうしても「散歩」の文化が発達しなかった。歩くといえば古くから寺詣や神社詣のようなことは盛んに行われてもいた。しかし、ただ何の意味もなくぶらぶらと歩きまわるようなことは「はしたない」こととして禁じる風潮があったのである。

そういう中で、歌人や俳人は唯一、散歩をすることができた。鎌倉時代の歌人、鴨長明は出家遁世の後によく散歩をしてそのことを『方丈記』に著した。60歳になった彼は自分の草庵の近くに住む10歳の少年とともに里山を歩き、花を摘んだり果物をとったりして「心がなぐさめられた」と言っている。彼は散策しながら琵琶の弾き語りもしたらしい。「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」の名文は、彼のそうした風雅な散歩の日々の中から生まれたのであろう。

思わぬ出会いが散歩の楽しさを記憶に残してくれる

ただし、武家社会の一般常識にあって、散歩は怪しまれたり、咎められはしても、歓迎されるものではなかった。外出時にはきちんと羽織袴を着けて、腰には刀をさして歩く武士に、理由のないぶらぶら歩きなど出来るものではなかったろう。また町人にしても、用もなく外出するのは戒められていた。この時代、町をうろつくなどというのはまともな人間のすることではなく、ごろつきや遊び人といった類の人間だった。散歩が許されたのは、暇を持て余したご隠居か、ほかにすることの何もない限られた人達だけだったのである。

松平定信（1758～1829）は隠居後、一橋家の別邸だった築地の屋敷を譲り受け、物を書いたりしながら悠々自適の生活を送ったという。そして、邸内の広大な庭園を散歩することはまた、彼の日課だった。彼は、隠居後に『修行録』という自伝を著しているが、その中に彼の散歩の様子が書かれている。

「あつからぬころは、朝めしすみて庭ありき、ひるのころふたたび計もありき、夕つかたまたありく。なつも日かたぶくころ一たび、くれぬうちに又一たびありく。その餘三季は、ひるより日のくるるまで、四たび五たびもありく、つねなり」

定信は、よほど散歩が好きだったらしい。もっとも彼の屋敷は1万7000坪の広さがあり、その庭に竹林や池などを配して、築山からは海を望むことも出来たという。浴恩園と名づけるほどに素晴らしい庭があれば、人目を気にする必要もないのだし、誰だって用がなくてもぶらぶらと歩いてしまうに違いない。

実際に、定信が散歩をしながら何に思いを巡らせていたのかはわからない。ただ世間の煩わしさから逃れて隠居している身であれば、これまでの人生のことを考えたり、それを書き表すにあたっての構想を練ったりしていたのであろう。いずれにせよ、今の散歩の形に最も近いものだったかも知れない。

日本の武士で、初めてぶらぶらと町を散歩したのは、たぶん勝海舟ではないかと思われる。海舟は33歳のとき、造船技術や航海術を学ぶために長崎に留学した。その折に、オランダ人の先生が、用もなくぶらぶらと町を歩く習慣があるのを見て興味を持った。

海舟が先生にそのわけを尋ねると、それは、ヨーロッパに昔からある「散歩」という習慣であることがわかった。散歩は体のための運動であると同時に、知らない町の生活の見聞を広めて、後の自分に役立てることだというのである。

それから、海舟は自分も暇になると長崎の町をぶらぶらと歩いた。そして彼にとっても習慣となった散歩は、江戸に帰ってからも続けられた。彼は日本橋や京橋界隈だけにとどまらず本所、深川などの下町も散歩した。このようにして海舟は、世の中の動きを自分自身の目や耳で実感するとともに、進んでその土地の人々と話をするようにした。

海舟は後年、この時代の散歩が維新の時にとても役にたったと語っている。江戸城開城の際に、もしも決裂して戦になったら官軍の後ろで暴れてほしいと、前もって魚河岸の血の気の多い連中に頼んでおいたのである。

もともと好奇心旺盛な海舟のことだから、散歩というこれまでの武家社会にはない習慣を、抵抗なく受け入れられたのだろう。ただ、海舟の散歩にしても「見聞を広める」というちゃんとした目的があり、気晴らしになんとなく歩くそれとは、少し違うものだったかもしれない。

物を自由に見る。

曲がることも、引き返すことも、立ち止まることも自由。
散歩のような物の見方でたまには頭の体操を!

哲学・思想史の中に見え隠れする「散歩」。

西洋で発達した散歩⇒アリストテレスの逍遥学派のひらめきは履き物に由来!?

ふだんは目にとめないものが特別な存在に見える

散歩と同じような意味を持つ言葉に「逍遥」というのがある。気ままにぶらぶら歩くという意味だが、その言葉から逍遥学派と呼ばれているのが、哲学者アリストテレスが始めた学派である。

アリストテレスはアテナイ市郊外の体育場を借りて紀元前4世紀に学校を創設した。その学校には、屋根付きの回廊が付いていて、アリストテレスはその回廊を行ったり来たりしながら、弟子たちとともに哲学を論じた。また、アリストテレスには、歩き回りながら講義をする習慣があった。逍遥学派といわれるのは、そうした彼らの挙動に由来したともいわれるが、本当のことはわからない。いずれにしても、アリストテレスが歩き回っていたのは確かなようである。

そして、このことと逍遥学派の人達の素晴らしいインスピレーションが、無関係ではないというのが『ザ・ウォーキング・ブック』の著者、ジェラルド・ドナルソンだ。ドナルソンによれば、逍遥学派の人達のひらめきが優れているのは、履き物のせいである。彼らの履いていたサンダルは通気性に優れていて、足が自由に呼吸できた。また、足首が楽に動き、皮が擦りむけることがなく、どんな地面でも難なく歩くことができた。つまり、窮屈な靴によってゆがめられることなく健康な足で歩けたために、彼らには優れたいろいろな発想ができたというのである。

確かに、人は二本足歩行することで進化した。直立して歩くことでサルから分かれてヒトになった。つまり歩くことで、脳が活性化するのだ。だから歩けば歩くほど、人の思考能力は高まるということかも知れない。

現に、西洋の偉人たちには「歩いていて」歴史に残る発見や発明をした逸話が多い。例えば、万有引力の法則を発見したニュートンは、庭を歩き回っていたとき林檎が木からポトリと落ちるのを見てひらめいたという。また、哲学者や思想家にしても「歩いて」ひらめきを得たという人は多い。

19世紀末の思想家、ニーチェも散歩の途中で、かの『ツァラトゥストラはかく語りき』の根本思想を得たという。

古典文献学の教授であった彼は健康を害して辞職したあと、スイスやイタリアなどに移り住みながら、著作活動に励んだ。そうした彼にとって、散歩は心身の安らぎだった。そして、彼がスイスのエンガディン峡谷のシルバプラナという美しい湖の近くの森を散策しているとき、突然「永劫回帰」の思想が彼を襲ったというのである。これを1年数カ月あたためていた彼はその後、ジェノバ近郊の散歩道で『ツァラトゥストラ』第1部の構想を思いつき、10日間で一気に書き上げてしまったという。このいきさつについては彼が、著書の中でも触れている。

また、ジャン・ジャック・ルソーの『人間不平等起源論』も散歩から生まれた。ルソーは、彫金師の親方のもとから逃亡した16歳の時から66歳で他界するまで、各地を放浪して過ごした。彼は自然をこよなく愛した。『告白録』に彼はこう記している。

「私は太陽とともに起きる、そして幸福を感じる。散歩する、そして幸福を感じる。森や丘をかけめぐり、谷間をさまよい、読書し、余暇を楽しみ……」

そして、彼が思想家として世に知られるきっかけになった『人間不平等起源論』を思いついたのもパリの森を散歩しているときだったという。彼は、その森の中に原始時代の面影を見いだし、そこから人々の間にある不平等の起源ということを考えたのだ。その後も彼は、著書の構想を練るために、よく森の中を散歩したという。前述の『告白録』の中にはこんな記述もある。

「徒歩はなにかしら、私の思索を活気づけ、活発にするものをもっている。ひとところにじっとしているとき、私はほとんど考える力をもたない」

「私は歩きながらでなくては思索できない。立ち止まるともう考えてはいない。つまり頭脳は、足と同時でなければ進まないのだ」

つまりルソーの散歩は思索と密接につながっていた。とくに書物を著すようになってからは、むしろ考えるために散歩をした。彼は、晩年パリの郊外に住み、その時の自然とのふれあいを『孤独な散歩者の夢想』に著した。それが彼の遺著になったという。

自分を実感する。

とりあえずは自分である。バーチャルに慣れた体を
季節の空気の中に投げ出して自分の物語を取りもどしては？

土を踏みながら、足もとを見つめながら

散歩は単なるウォーキング、運動の類とは違う

一体何だろうと思わずしゃがみ込むのも散歩だから？

「散歩」が脳の神経細胞を活性化させる！

作家たちの散歩⇩武蔵野の自然を愛した国木田独歩、東京を遊んだ森鷗外。

「散歩」は思想家や哲学者だけのものではなく、作家もまたひらめきを得るのに役立てていたことが、ジャン・ルイ・ド・ランビュールという人の『作家の仕事部屋』に書かれている。その中でフランスの著名な作家たちが、散歩と創作の関係について次のように語っている。

「書物の一部は、まさに犬の散歩の間、私の頭の中でできあがる」（ミッシェル・レリス）

「街なかや地下鉄や牛乳屋でなにかおもしろい話を聞くたびに、私は台になりそうな壁を探して、二言、三言手帳に書きつけるんです。そんなふうにして、散歩の間に短編がひとつ生まれたこともあります」（マルセル・ジュアンドー）

「1日に2時間以上仕事をすることはありません。それ以上になると外に出て散歩をせずにはいられなくなるのです。（中略）歩くことはしばしば、自分では必ずしも満足できなかった文章をほとんど機械的に練り上げるのに役立ちます」（ジュリアン・グラック）

こうしてみると、散歩にはやはり、脳の活性化につながる何かがあるらしい。シナプスと呼ばれる脳の神経細胞は頭を使うことで増えていくが、体を動かすことでも増えていく。つまり筋肉を動かすことによって、脳の神経細胞も働くからである。確かに机を前にしてまんじりと座っていても、頭の中がよどんで何も思い浮かばない。考えがまとまらなかったり、何かに行き詰まったときは頭を抱えていないで、散歩に出るのがいいということなのだろう。

前述のように、江戸末期に西洋人にもたらされた散歩の習慣は、明治になってとくに日本の文人などに受け継がれた。そのなかでもとくに散歩を好んだのが『武蔵野』を書いた国木田独歩である。独歩のペンネームは言うまでもなく「ひとり歩き」の意味を持つものだが、同じ明治の文人、坪内逍遙の名も「逍遙」（気ままにぶらぶら歩く）という意味からとったものだ。ただこれを引用した荘子の漢詩の中では「逍遙」は「気ままにのびのびする」という意味で使われている。おそらく「気ままに」という言葉の雰囲気が今の散歩の意味に転じたのだろう。

さて『武蔵野』の一部を引用しよう。

「武蔵野に春、夏、秋、冬の別あり。野、林、畑の別あり。雨、霧、雪の別あり。日光と雲影との別あり。生活と自然との別あり。昼と夜と朝と夕との別あり。月と星との別あり。平野の美は武蔵野にあり。草花と穀物と、林木の別あり。ここに黙想あり。散歩あり。（中略）秋の晴れし日の午後二時半ごろの林の中の黙想と回顧と傾聴と睇視とを記せよ。ああ『武蔵野』。これが余が数年間の観察を試むべき詩題なり」

独歩は大分県に教頭として赴任したときに、ワーズワースの詩に出会い、その自然を慈しむ姿勢に共感して、自らも赴任地周辺の森や野や山を歩き回った。そして上京し、上渋谷村に住んで『武蔵野』を書いたのである。当時の渋谷は「或は渋谷、世田谷、または小金井の奥の林を訪ふて（中略）頭上の木の葉風なきに落ちて微かな音をし、それも止んだ時自然の静粛を感じ……」とあるように、武蔵野の林がすぐ近くまで続いていた。

彼の場合は武蔵野散策そのものが小説の題材になったわけであるが、彼はその中で、あるべき「散歩の仕方」についても書いている。「武蔵野に散歩する人は、道に迷うことを苦にしてはならない。どの路でも足の向くほうへゆけば必ずそこに見るべく、聞くべく、感ずべく獲物がある」「帰りもやはりおよその方角をきめて、別な路を当てもなく歩くが妙」というように、「あてもなく歩く」散歩の神髄を究めたのである。

森鷗外も散歩に親しんだ作家である。植物が好きだった鷗外はよく子供と小石川植物園や町中を散歩した。森於菟の『父親としての森鷗外』には彼の散歩の様子が描かれている。

「父は、この散歩で冗な物は買わずに町の景色を観察して楽しむことを私に教えた」

古本屋の顔馴染みの店主と話し込みながら、古本や夜店のものをあさっていたという。また、散歩のとき彼はいつもドイツ語の本を懐に入れていて、見晴らしのいいところにある茶店にくると寝転んでタバコをふかしながら、それを読んだらしい。やはり、ぶらぶら歩きの達人だったといえるのである。

ありふれた風景を残したい。

環境保護のためだけに10年間。おかげさまで、その成果が少しずつ見えてきました。

季節によって、天候によって、時間によって、美しく表情を変える海。しかし自然の流れによって変わるのではなく、人によって、その表情にかげりを見せている海もあります。「人がいるから海は汚れる」から、「人がいるからこそ海は汚れない」へと変えていかなければなりません。海だけではなく、あなたの身近に、そして、あなたの故郷に、ごく当たりまえに存在する風景を、ずっとずっと残していくために、私たちは今日も活動しています。アムウェイ・ネーチャーセンター。それは環境保護のためだけに生まれた、もうひとつのアムウェイです。オリジナルのキャンペーングッズを販売し、収益のすべてを環境基金にあてています。国内外、計41の自然保護プロジェクトに5億2千万円を助成。10年たった今、着実にその成果が現れはじめてきました。私たちは、これからも、この「環境基金キャンペーン」をはじめ、さまざまな活動を展開していきます。美しい地球を未来に残すことができるよう、みなさまのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

Amway Nature Center

Another way of Amway

これが私たちの助成先です。【1990年】●伊豆沼・内沼サンクチュアリの創造（宮城県）●オホーツクの村（北海道）●「みどり一本」運動（東京都）【1991年】●八重山サンゴ礁復元（沖縄県）●ヤンバルの自然保護（沖縄県）●見沼田んぼランドトラスト（埼玉県）●ベルシャ湾野生生物救済基金（東京都）【1992年】●桶ヶ谷沼トンボ保護（静岡県）●ブナの里観植樹（青森県）●釧路湿原自然ガイドシステム作り（北海道）●立山遠峰の高山植物復元（富山県）【1993年】●釧路湿原自然ガイドシステム作り（北海道）●黒沢湿原保全（徳島県）●ジブチ砂漠緑化（東京都）●エコ・アップ雲仙（長崎県）●八重山サンゴ礁復元（沖縄県）【1994年】●屋久島自然保全（鹿児島県）●天神崎保護（東京都）●オニバスの保護育成（新潟県）●伊豆半島海中の森保護と復元（静岡県）●小深堀21（栃木県）【1995年】●屋久島自然保全（鹿児島県）●白山イヌワシの森（石川県）●星山サンクチュアリ（千葉県）●トンボ王国（高知県）●池の平湿原保護（長野県）【1996年】●ヤンバルの自然保護（沖縄県）●大山山頂の植生復元（鳥取県）●八代のツル渡来地の環境復元（山口県）●クビワコウモリの繁殖コロニーづくり（長野県）【1997年】●シマフクロウの森の回廊づくり（北海道）●ツシマヤマネコの生き残れる環境づくり（長崎県）●マリモ生育環境の復元（北海道）●手賀沼自然循環再生（千葉県）●五家荘のブナ林復元（熊本県）【1998年】●白神・山の森、海の森、二ツ森づくり（秋田県）●スノーレッツの森（長野県）●小笠原の植生復元とクロアシアホウドリの営巣地保護（東京都）●水源の森づくり（群馬県）●ニッポンバラタナゴの里山保全（兵庫県）【1999年】●ウミガメの保護（大阪府）●四万十川清流を育む森づくり（高知県）●河北潟の湖岸再生（石川県）●ハンノキ林づくり（宮城県）●ヤマネの保護と森（山梨県）

アムウェイネーチャーセンター　〒150-0042　東京都渋谷区宇田川町7-1　03-5428-7290　http://www.amway.co.jp

MISATO
(埼玉県三郷市)

美田長彦

埼玉県三郷市長(昭33政)

市長というのは、市を動かしていく。
つまり市の将来をイメージして、
それをつくっていくわけで、責任もありますが、
それだけの楽しみもありますね。
何かが残る。金は残さないが、
名は残るかもしれない。

美田長彦(みた・おさひこ)
昭和8年11月2日埼玉県三郷市生まれ。昭和27年都立小石川高校卒業後、学習院大学政治学科に入学。同33年卒業。同年埼玉県庁に入庁。同42年埼玉県庁退職。昭和50年4月30日埼玉県議会議員となる。以後平成6年10月まで連続5期、19年6カ月の間県議をつとめる。この間、土木・住宅都市常任委員会委員、都市整備対策特別委員会委員、鉄道網整備対策特別委員会委員、埼玉県都市計画地方審議会委員、埼玉県国土利用計画審議会委員、県議会常磐新線建設促進議員連盟会長などを歴任。平成6年11月14日、地元三郷市の市長に就任、現在に至る。元埼玉桜友会会長。大学では生物部と写真部に所属していた。

今考えてみると、子供の頃から政治の道に進む道筋はできていたんですね。

高校は都立の小石川高校で、地元・三郷から通っていました。当時武蔵野線はまだ開通していませんから、家から東武線の草加駅まで約6㎞、毎日毎日自転車ですね。草加からは北千住へ出て、北千住から常磐線で日暮里、そして山手線で目白と。当時の小石川高校は目白が最寄駅で、古い文京区役所の前にあったんです。

学習院に入ったのは、父の意向もありまして。私の父は薬剤師から埼玉の県会議員になっていたんですが、いわゆる技術屋ですから、政治の世界ではわりと苦労していまして、息子がもし自分のあとを継ぐことになっても苦労のないように、早いうちから政治を勉強させようということで学習院の政治学科に目をつけたようです。

当時の学習院の入学案内を見ると、確かに民法の中川善之助先生、憲法の淡野安太郎先生、社会学の清水幾太郎先生といった、新聞などでたびたび目にする有名教授の名前がずらりと並んでいまして、ここだと思ったんですね。小石川高校というのは受験校だったものですから、そういう情報はしっかりあったんですね。

1、2年は清水幾太郎先生のいわゆる清水ルームでした。清水ルームには優秀な先輩もたくさんいて、まあ、真面目に勉強せざるをえなかったということでしょうか。おおむね真面目に勉強したと思いますが、私は個人的には、ホントは理科系に行きたかったんです。

私は、生物が好きで、中学、高校でも

そうですが、大学でも生物部に入りました。生物好きは、小学生の頃、植物の越冬、木の芽がどう冬を過ごすのかを観察して、冬休みの宿題として提出したレポートがほめられたのがキッカケでした。それから父が薬剤師をしていた関係で、家にフラスコとかビーカーなんかがあって、自分で実験をしたりして遊んでいたということもありましたけどね。生物は今でも好きなんですが、今は時間がなくて何もできないのが残念です。

大学卒業後は、埼玉県庁に入りました。そのまま県庁職員として全うするのもいいのかなと思っていたところ、昭和38年に父親が亡くなって、政治の道が現実的に見えてきたんです。

そのときすぐに選挙に出れば、二世候補として即当選したかもしれませんが、何となく世襲というイメージがイヤだったものですから、1期あいだをあけて、結果的にだいぶ苦労しましたが、結局昭和50年の4月に県会議員になったわけです。県会議員として5期19年半、いろいろなことをやらせてもらいましたが、平成6年、前市長からの要請や周囲の人たちの要望もあって、地元の市長に転身することにしたわけです。

政治の世界というのは、普通の世界とは少し違うところがあるので、その中で育ってきた人が、やはり政治家としてスムーズに成長するのではないかと思います。二世議員を批判する声もありますが、二世議員というのは、親の体面もあって変なことはできないものなんです。二世議員は真面目な人が多いと思いますよ。

政治家というと何となくオイシイ役割という見方もありますが、実は苦労ばかりで、親のことを見ていますから、私も政治家などやるもんじゃないと思っていましたが、後援会や支持者の期待もありまして、受けざるをえなくなってしまったんですね。私は酒もタバコもやらないし、真面目一方ですから、利権がらみですり寄ろうとしている人たちにはツマラナイ政治家だろうと思いますね。

市長応接室にある航空写真を前に三郷市の将来計画を語ってくれた美田長彦市長。常磐新線の新駅周辺を21世紀の市の中心として「親水交流都市」をめざす

政治家の苦労の第一は、家庭の問題だと思います。自分のことより市民のこと、国であれば国民のことを最優先に考えなければいけないわけで、家庭をかえりみる余裕がなくなってしまうんですね。でもね、家庭のことも、政治家にとっては批判の対象になるので、そういうジレンマが苦しいんです。

わが家は、子供は3人。上2人が女で、下が男。特別なことをしているわけではありませんが、息子は政治家を志しはじめたようです。親を見て自分で考えて勉強をしているらしいんですね。私にできるのは、身辺をキレイにして批判を受けることのないようにしておけ、といってやるぐらいですけど。

政治家というのは好きなことができないし、つまらない人生だなと思うこともあります。しかしやりがいもあるんですね。市長になればなったで、市長というのは、市を動かしていく。つまり市の将来をイメージして、それをつくっていくわけで、責任もありますが、それだけの楽しみもありますね。何かが残る。金は残さないが、名は残るかもしれない。

三郷市は特色がないのが特色だなどといわれていますが、現在住みやすさはもちろん、特色のある市をめざして、がんばっているところです。

江戸川と中川にはさまれた三郷市。市庁舎は超モダンな吹きぬけ構造のユニークな建物。1階はオープンスペースだ

DATABOX 三郷市

●人口約13万4000人。市内に三郷インターチェンジ、建設当時東洋一といわれた〝みさと団地〟がある。

●市の前身である三郷村が誕生したのは昭和31年。東和村、彦成村、早稲田村の3村の合併によった。その後、昭和39年三郷町、昭和47年には市制が施行されて三郷市に。昭和48年には当時の国鉄武蔵野線が開通し、三郷駅が同時に開業した。新三郷駅は昭和60年開業。

●現在〝特色のない市〟からの脱皮をめざし、「観光写真コンクール」や市全体をキャンバスにたとえ花や緑で飾ろうという「三郷グランドアートづくり」に力を入れている。秋葉原〜つくば学園研究都市を結ぶ常磐新線の新駅も建設中。

インタビュー・構成／吉江隆信（昭50仏）　Photographer/Shigeki Kawakita

明日のむこうに見えるもの。

心が豊かだとあったかいね。
明日への活力があふれる
夢を育むコミュニケーション。
創造力を「カタチ」にするちから。
わたしたち共同印刷は
みんなの生活に彩りと
楽しさを贈りつづけます。

人へ・未来へ・コミュニケーション

KYODO PRINTING CO.,LTD. 共同印刷

[illegible]石川4-14-12 電話案内台 03-3817-2111

当社のインターネットホームページアドレス(URL)はhttp://www.kyodoprinting.co.jp/

桜友会だより

ピックアップCOLUMN

法学部会総会

『大野晋名誉教授 日本語の将来を語る』

講演会の後、百周年記念会館小講堂で開かれた懇親会

日本語のおもしろさを分かりやすくひもといていく大野先生

日本人はもっと言葉をしっかり使うべきです。

平成12年6月12日の18時から、学習院創立百周年記念会館にて法学部会総会が開催された。平成11年度活動報告等の議事審議の後、学習院大学名誉教授の大野晋先生を講師に招き、講演会が開かれた。

今回の講演会のテーマは「日本語の将来」。日本語の権威である先生の話が聞けるとあって、平日にもかかわらず会場には100名を超す人が集まった。

日本語の歴史など、目からウロコの興味深い話題が話されたが、なかでも参加者の興味を引いていたのが『日本語は南インドの「タミル語」から強い影響を受けている』という話。助詞や助動詞などの文法や係り結び、短歌の形式などは、実際にタミル語にも見られるという。言語は文明の強いところによって広がるという説の具体的な形がここに現れている。日本人にとって必要なことは、もっとはっきりモノを見て書くことである。そう先生は述べて、この講演会をしめられた。

講演会終了後には、小講堂で懇親会が開かれた。島津院長と賀陽桜友会会長が来賓祝辞を述べた後、法学部長の坂本孝治郎教授により乾杯の発声が行われた。学習院や桜友会関係者も多数来場し、会場は華やいだ雰囲気。大野先生も終始ご満悦の様子だった。

学習院関係者の著作物は、書店で数多くみられるが、なかでも大野先生著の『日本語練習帳』は空前のベストセラーになった名著である。

初心者のための「日本語トレーニングの指南書」で、練習問題を解きながら解説を読み進んでいくうちに、日本語の能力が磨かれていくという内容だ。らぬき言葉をはじめ、言葉の乱れが指摘されている昨今。この本を読んで、日本語をスキルアップしてみてはいかがだろうか。

ベストセラーになった「日本語練習帳」（岩波新書／660円）

昨年７月に活動を開始した創立２年目の桜友会

なつかしのキャンパス再び

オリンパスグループ

OLYMPUS GROUP

代表の澤村さんのまわりにはいつも和やかな談笑の輪が

昨年、創立80周年を迎えたオリンパスグループ。世界最先端の光学技術を生かして、21世紀も新たな価値創造企業を目指す。

昨年７月に百周年記念会館で開かれた第１回のオリンパスグループ桜友会

オリンパスグループ

設立は大正８年（1919）。昨年10月に会社創立80周年を迎えた。大正９年には国産初の顕微鏡「旭号」を発売。以後、世界に誇る「光学技術」をベースに、映像・情報・医療・計測機器の製造販売を行い、独創的な製品で各時代の夢を実現してきた。なお、昭和25年にはオリンパス販売株式会社を設立。オリンパス商品を核として医療ライフサイエンス、デジタル情報、工業市場の各分野のソリューション提案に関する事業を行っている。

●オリンパス光学工業株式会社
本社:東京都渋谷区幡ヶ谷2-43-2
資本金:408億3200万円　従業員5837名

●オリンパス販売株式会社
本社:東京都千代田区神田駿河台3-4
資本金:7億1000万円　従業員1062名

高度映像情報化社会にも貢献

同窓の仲間同士自然と笑顔がこぼれる

オリンパスグループ企業には、現在43名の学習院出身者が在籍しております。これまでの長い間、有志による集まりはありましたが、全員に声をかけて集まるような活動はしておりませんでした。

昨年７月に、当社に学習院から最初に入社された澤村先輩のご尽力により、第１回のオリンパスグループ桜友会を開催。続いて今年５月には第２回の桜友会を開催して、会員相互の親睦を深めました。

当社は、カメラ、テープレコーダー等の大衆商品から、顕微鏡、内視鏡、血液自動分析機等の医療機器・情報機器まで多くの分野の商品を開発製造販売しており、会員の人たちの所属する分野も多岐に渡っております。

オリンパスグループ桜友会が、自分と異なる仕事をしている人たち、自分と違う考えを持っている人たちと交流し、互いに刺激を与え合う場になればと思っております。

文／中溝孝三（昭38物）

オリンパスグループ桜友会代表のひとこと

新たな価値創造に向けてネットワーク作りを

オリンパス光学工業株式会社
前専務取締役
技術開発本部長
常勤顧問
澤村一郎
（昭35物）

当社は、光学技術と精密技術をベースに国産第１号の顕微鏡を世に送り出し、昨年80周年を迎えました。80年の当社における事業展開の歴史は、時代の進展とともに「伝統の技術」と「先進の技術」を融合させ、広範なアプリケーションを生み出す「新たな価値創造」でありました。さらに歴史を積み重ねていくために、自らが社会の一員として、人や社会のニーズを発掘し、新しい価値創造へ取り組んでいる多くの人々が働いています。当社の学習院の仲間も人数が増えるに従って、幅広い年代にまたがるようになりました。お互いが伝統と先進を重んじつつ、新たな価値創造ができる同窓のネットワーク作りができればと願っております。

澤村先輩とオリンパスグループの愉快な仲間たち

① **澤村一郎**（昭35物）常勤顧問／技術開発の分野を中心に当社のほぼ全ての技能分野を歴任。常に新技術の立ち上げの先頭に立ってきた。

② **石川　弘**（昭37物）OB／研究開発部門・生産技術部門の大ベテラン。昨年9月に定年退職。パソコン教室でブラインドタッチを特訓中。

③ **中溝孝三**（昭38物）技術開発企画部／技術開発部門を中心に販売・海外駐在も経験。「異文化の融合」に関心をもつ当桜友会の幹事長。

④ **池田孝則**（昭40物）光学機器品質保証部／カメラ、顕微鏡の品質保証のベテラン。飛行機の操縦が趣味というアクティブな人。

⑤ **古田信衛**（昭44経）新事業推進企画部／海外営業一筋、テニス一筋の人。オリンパスグループ桜友会副幹事長として会を盛り立てる。

⑥ **梅原一也**（昭45経）広報宣伝部広報室／人事部、販売、秘書室を経て現職。第1回オリンパスグループ桜友会の幹事長を務める。

⑦ **森嶌治人**（昭45経）内視鏡事業部消化器事業推進部／入社以来、内視鏡営業を担当（米国駐在を含む）。趣味はゴルフ。

⑧ **矢口雅之**（昭56経）オリンパスシステムズ／国内営業を経て、現在アパレル関係の新事業を担当。エレクトーン演奏を楽しむ。

⑨ **上原健司**（昭57物）光学技術部／レンズ設計システム、測定機光学系の開発を担当。スキー、スケートとウィンタースポーツの猛者。

⑩ **徳植弘道**（昭60経）内視鏡外科内視鏡部／営業管理から、内視鏡営業へ異動し活躍中。息子のサッカー観戦がうれしいひととき。

⑪ **高栁　功**（昭60物）ARC第2研究室／半導体技術センターから研究所へ。釣りと燻製作りを愛するアウトドア派。

⑫ **小尾邦寿**（平1化）生産技術部／接着、洗浄、有機材料、光学用樹脂を扱う。若手の指導も担当するマルチな人。

⑬ **山田直樹**（平2物）新事業推進本部S1事業推進部／光カードシステムの企画・開発・営業を行っている。笑顔が素敵。

⑭ **清水誠二**（平3数）映像営業部／カメラレンズの設計から営業へ。双眼鏡の商品企画を行っている。

⑮ **盛田直樹**（平11数）オリンパスシステムズ／当社の健康診断システム、パッケージソフトの開発を行う。ミステリー&馬を愛する。

職域桜友会NEWS

出版桜友会を開催

学習院出身の出版関係者が年に1度、目白のキャンパスに集う「出版桜友会例会」。今年も6月21日の夕暮れ時に、出版社や販売会社、書店等で日々活躍する約80名の会員が懇親を深めた。

学習院出身の出版関係者が集う「出版桜友会第23回例会」が、6月21日の18時30分より学習院輔仁会館2階のさくらラウンジにて開かれた。会に先立ち、紀伊國屋書店の田邊禮一氏（昭32経）が挨拶。「同窓生はパートナーとして大事にしたいもの」と述べ、会場からの拍手を集めた。

続いて、来賓として出席の賀陽桜友会会長からは「学習院の評判が高くなっている」とのお言葉。乾杯の後、懇親会に移り、会場の至る所で情報交換や学生時代の思い出話に花が咲いていた。なお、今年の特徴は、若手の会員が多く来場していたことである。同窓会の活発化のためにも非常に喜ばしい光景であった。

輔仁会館2階のさくらラウンジにて年に1度の再会を祝して乾杯！

出版桜友会の初参加者恒例の自己PRコーナーも。緊張の面持ち

思い出サークルめぐり〈その1〉

山岳部
SANGAKU-BU

昨年、創部80周年を迎えた輔仁会山岳部。日本から世界の名峰に夢と憧れを寄せて、山への讃歌を自然という名のノートに刻み続ける。

アルバータ峰初登頂を果たした学習院・慶應合同登山隊（1925年）

上／学習院単独登山隊がアラスカ・ローガン峰を初登はん（1964年）。下／学習院ヒマラヤ登山隊が念願のスキャンカンリ峰を初登頂

はるか明治時代にまでさかのぼる学習院の山岳活動の歴史。当時ボン大学に留学していた近衛篤麿氏がスイス・アルプスを登山したのがその始まりという。以後、21世紀を間近に迎えた今日まで、学習院出身者による山岳活動は活発に行われ、数々の偉業を築き上げてきている。

山岳部の創部は大正8年4月。創部当時の名称は「輔仁会旅行部」で、部内はさらに「旅行部」と「スキー部」に分かれていた。創部3カ月後には赤城・日光・白馬岳・妙高山への山行などが行われていたので、発足当初から活動が活発であったことがうかがえる。

「山岳部」と改称されたのは大正14年。同年、学習院と慶應の合同登山隊が北米のアルバータ峰（3619m）初登頂を成し遂げている。日本山岳会初の海外遠征でもあり、学習院からは岡部長量、波多野正信（ともに大12旧高）の両氏が参加。頂上に立った隊員9名は、日の丸を振ることも、万歳を叫ぶこともなく、無言のまま互いに握手を交わし、初登頂の喜びを分かち合ったという。

大正14～16年には、日本山岳協会や日本山岳会の会長を務めたことがある松方三郎氏（大8旧高）や元部長の渡辺八郎氏がヨーロッパアルプスを登山。大正15年には、秩父宮殿下も一緒に登られている。

時代は移り変わり昭和10年。『森林・草原・氷河』という日本の山岳書の中でも有数の名著を残している加藤泰安氏（昭9旧高）や周布光兼氏（昭13旧高）ほか4名が大興安嶺最高峰（1835m）の初登はんに成功した。

昭和28～33年には、日本山岳会や京都学士山岳会の海外遠征に参加。前OB会長の舟橋明賢氏（昭19旧高）をはじめとするグループがアンナプルナ2峰、4峰の試登を果たしたほか、芳賀孝郎氏（昭33経）のグループがチョゴリザ（7654m）の初登頂も成し遂げている。

海外遠征は他の団体との合同がメインであった山岳部も昭和39年、ついに学習院単独の登山隊を結成。川崎巌氏（昭35経）らによりアラスカ・ローガン峰の登山を行った。中央峰（6050m）の登頂と西山稜の初登はんに成功し、学習院山岳部の歴史に残る偉業を成し遂げた。

念願の学習院ヒマラヤ登山隊が結成されたのは昭和51年。三井源蔵氏（昭20旧高）、贄田統亜氏（昭38化）などのグループがスキャンカンリ峰（7544m）初登頂を果たした。

なお近年では、永田秀樹氏（昭55独）らによるチョー・オユー峰（8202m）の登頂や、棚橋靖氏によるナンガパルバット（8125m）の単独登頂成功が偉業として挙げられる。

山岳部創立80周年記念を迎えた昨年10月、学生を中心とした初の海外合宿が行われた。目指したのは中国の未登峰レッドメイン峰（6112m）。海外での登山経験が豊富なOBの棚橋氏を隊長に学生主体のパーティーが初登頂に成功したことは、今後の山岳部の黄金時代の幕開けを告げる出来事にちがいない。

もちろん山岳部の活躍は海外だけに留まらず、国内でも数々の業績を残し、枚挙に暇がない。

日本の山岳クラブの最古に数えられる輔仁会山岳部。今後も世界の数々の名峰を踏破し、母校に錦を飾ってくれることであろう。

PHOTO REPORT

レッドメイン峰 初登頂への軌跡!

頂上直下のトラバース

「レッドメイン峰登山に参加して」

学習院大学
レッドメイン登山隊隊長
棚橋　靖
(昭63仏)

99年秋、学習院輔仁会山岳部創部80周年記念の一環として、初めての海外合宿を行った。中国・四川省にある未登峰、レッドメイン（6112m）に現役学生8名、OB2名、山岳部長の総勢11人が挑んだのである。

近年、中高年の登山ブームといわれている。しかし若い人々にとって登山は人気がないのか、わが山岳部でもこのところ部員の減少、活動の低迷が続いている。そんな状況を打開しようと今回の海外登山を計画したのだ。

約1カ月の登山のの、10月5日学生（4年生）2名とOB1名が初登頂に成功した。登山の成功もさることながら、私にとっては全員が大きなけがもなく無事に登山を終えられたことが何よりも嬉しい。私自身、これまで何度かヒマラヤ登山を行う機会があったが、隊長として参加したのは初めてであり、現役の学生を連れてゆく立場は大きなプレッシャーになっていたのだ。

今回、学生とOBがひとつの目標にむかって力を合わせるという貴重な体験をすることができた。学生にとっても、世界にはいろいろな山があって、いろいろな人が住んでいるということを肌で感じることができたと思う。

学習院輔仁会山岳部で育った者として、私はこれからも学生とともに山に登り、山登りの面白さを伝えていきたい。

全員登はんのひとこま。一歩一歩踏みしめながら進んでいく

登山隊MEMO

●隊員構成
隊長／棚橋靖（昭63仏）、副隊長／原田昌幸（平4史）、部長／荒川一郎（理学部教授）、隊員／小川典祐（営4）、田代雄嗣（営4）、内野麻衣子（哲2）、矢萩昇太郎（数2）、志村義明（営1）、高橋寛之（政1）、福島拓夫（法1）、山根彩（英4）

●主な行動日程
99年9月6日／先発隊東京出発、大阪へ。7～9日／大阪港～上海（航路）。10～12日／上海～成都（鉄道）。12日／本隊、先発隊と合流。22日／登山準備。10月3日／1次アタック隊C2（5550m）入り。4日／1次アタック失敗、2次アタック隊C2入り。5日／レッドメイン峰（6112m）の登頂に成功。9日／BC（4500m）撤収。13日／成都で解散。

加則拉側からみたレッドメイン峰。青空に白雪が映える

無限の広がりをもつ総合文化

学習院山桜会会長
橋本　實（昭29経）

終戦により疎開地の岡山から復学した翌年の昭和21年、中等科3年で山岳部（G・A・C）に籍を置いた。背が低かったので、剣道部では脳天を叩かれ、バスケットでは将来性がないと思い、山に生涯を捧げることになった。

山は一般の運動部と異なり、勝敗とは関係なく、記録の積み重ねから、客観的に証明できる証拠をもって、終結するのである。

山の対象は世界に広がっており、それぞれの差はあるが、大自然が相手であるため、その時々の気象判断、整備の調達、地形地質の判断、食料計画（カロリー計算等）、登山技術の修得、植物・動物の見方や利用方法、火をおこす技術、釣り、写真、絵等々、無限の広がりをもち、いわば総合文化なのである。

専門的に山に登った者の理念は普遍性があり、どんなに違う環境の中にあっても、不思議な一体感が生まれるのはそれぞれの個人が全体を考え、自分の役割分担を認識する能力を備えているからである。

今では光徳小屋で行われる年4回の例会の他、種々の集まりがあり、山を愛する仲間が昔を懐かしんでいる。山の仲間の友情は、ほのかな香りを放っている。

前任の舟橋明賢氏（昭19高）からOB会長をバトンタッチされた新会長の橋本實氏（右端）。日光光徳小屋にて

思い出サークルめぐり〈その2〉

写真部

SHASHIN-BU

創部当時、皆が真剣に磨いたという撮影技術。部の伝統として残る物事への真摯な姿勢が、人の心をとらえてやまない作品を創り出す。

昭和26年7月の写真部新入生歓迎コンパ（西1号館屋上で撮影）

創部50周年ピンボケ会総会、6月24日に開催

学習院写真部のOB会（通称ピンボケ会）の総会が6月24日の16時から、学習院大学『さくら』ラウンジで開かれ、70名余りのOB・OG、現役学生が集まった。当日は、桜友会からは草刈副会長が出席。前大学写真部長の波多野里望教授や現部長の松下淳一教授など歴代部長も来場した。会の名前にちなんでピラミッド校舎横に「ぼけ」の記念植樹がされたあと懇親会に移り、ビンゴ大会やオークションなど楽しい催しも行われた。さくらラウンジの一角には、以前発行した文集や写真集なども多数展示。学生時代の思い出を脳裏に思い浮かべながら、熱心に見入るOB・OGの姿が印象的であった。

今でこそカラーは当たり前になった写真の世界。しかし昭和20年代は、モノクロ全盛の時代であった。

学習院大学写真部が誕生したのは昭和24年。旧制高等科にはすでに写真部があったため、大学発足と同時に大学1・2年生として入学した旧高等科生がその活動を続けることで、活動がはじまった。

発足当初の部員は、近藤不二（昭27哲）、水田義直、野口欣弥、田村保夫、尾上清（ともに昭27政）、高橋正明（昭28物）、中村純一（昭28化）の各氏であった。また、初代部長には吉田早苗先生を迎え、部室は本館（現在の西1号館）3階の準備室を使っていた。

最初の部室は廊下からドア1枚の小部屋で、水場もなく、現像作業にとても不便。そこで昭和27年、同じ西1号館の地下1階に部室を移した。水場と独立した暗室がある部室であったが、現像液を貯蔵するためのプラスチックの瓶もなかったため、当時はウイスキーやビールの瓶に現像液を蓄えていたという。

昭和25年になると、学習院女子短期大学が開校し、短大写真部が誕生した。同年の11月には、小田急線沿線の柿生（かきお）にて短大生をモデルに大学・短大合同撮影会を行い、翌年には大学・短大写真部合同の新入生歓迎コンパも開いて、交流の輪を着実に広げていった。

以後写真部の活動の幅も広がり、昭和30年からは、甲南大学と「交歓展」を関東と関西で交互に開催。翌31年からはプロの写真家である牧田仁氏から指導を受け、撮影合宿もはじまった。

そして昭和32年、学習院写真部の黄金時代が始まることになる。「全日本学生写真コンクール」で共同制作作品が優秀校賞に選ばれたのだ。木曾馬の産地として知られる「木曾開田村」をテーマに合宿撮影した組写真「木曾馬の話」がそれで、最優秀学校賞を受賞。以後、「観光地・日光」「風土病―日本住血吸虫病」「変わりゆく漁村―岩手県下閉伊郡」「この大地の隅から―京葉工業地帯」といった作品が高い評価を得て、5年連続最優秀学校賞を受賞するという栄誉を勝ち取った。それらの貴重な作品は、昭和38年に出版された『共同制作　五ヵ年の歩み』で見ることができる。

写真部からはプロカメラマンも数多く輩出しているが、中でも小谷明氏（昭31政）や齋藤熙吉氏（昭34済）は有名である。また、映画・ビデオの分野でも海外で受賞をしたOB・OGの評価は高い。

OB会活動も活発だ。昭和52年に初代部長の吉田先生の定年退職を祝して開かれた「ぴんぼけ総会」は、その後毎年のように開催され、懇親の輪を広げている。ちなみに「ぴんぼけ」の名前は、民放ラジオで流れていたさくらフィルムのコマーシャルソングにちなんでいる。

近年では、毎年4月に開かれる「オール学習院の集い」で写真展を開催し、OB・OGの作品を展示しているほか、日光の光徳小屋での撮影会も行われている。

創部から半世紀。ファインダーを通して、その時代時代の真の姿をとらえる部の伝統は、いまも立派に受け継がれている。温かな雰囲気の中で、OBと現役との親交も今後ますます育まれていくことだろう。

PHOTO REPORT

『全日本学生写真コンクール』栄光の5年
「時代の姿」を映し出す世間が認めた「目」と「心」

1957年度作品「木曾馬の話」より

1962年度作品「この大地の隅から」より

1959年度作品『観光地・日光』より

1960年度作品『風土病』より

1961年度作品『変わりゆく漁村』より

SPECIAL COMMENT

写真の技術だけでなく人間的にも優れた後輩を

恩師とともに築き上げた歴史の重み

学習院写真部OB会長
山崎 徹（昭32政）
学校法人学習院評議員、
桜友会常務理事

「くらぶピンボケ」―学習院写真部OB会の会長をお受けして、早いもので一期2年が経過しました。創部以来50年の歴史のある会がここまで発展したのは、前会長の水谷晴彦先輩（昭30済）とOB会創立に情熱を注いだ初代会長の三松弘直（昭31済）両先輩の並々ならぬご努力の賜物であります。

思い起こせば、昭和30年頃より御茶ノ水の喫茶店「アミー」や内幸町の「日比谷イン」で毎月会合を開き、夏には日光や山中湖で合宿し、テニス、登山、釣りなど各自好きなグループに分かれ、夜は一緒に歓談した日々がいまでも大変懐かしく思い出されます。

そして、皆が集まってくる会合には、いつも初代部長先生の吉田早苗教授が出てきてくださっていたことも忘れられません。写真部とOB会を語る時には、やはりご夫妻でお出かけくださった吉田先生を除いて語ることはできないでしょう。

偉大な先輩や先生をはじめ、さまざまな方々のご意志を継いで、今後も部の益々の発展のために努力してゆく所存であります。写真の技術的にも、そして人間的にも優れた後輩を育てていくことが、今後の私共の使命であると信じて止みません。

昭和27年から発刊された同人誌「Pinboke」

INFORMATION イベントのお知らせ

櫻友クラブ主催<日本経済の最先端に触れる会>・9月20日(水)／東京証券取引所

東京証券取引所の見学会

日本経済の心臓部をちょっと覗いてみませんか

やっと光の見えてきた日本経済。そこで今回は、その経済の最先端、東京証券取引所を見学しようと思います。昨年4月にその象徴とも言える立会場は閉鎖されましたが、よりダイナミックな経済活動が今でも繰り広げられています。見学後は参加者で昼食をとり散会の予定です。≪日時≫9月20日（水）10時～。≪場所≫東京証券取引所。東京都中央区日本橋兜町2-1。≪会費≫昼食代のみ（見学無料）≪人数≫先着50名。≪問合せ≫☎03・3376・6086（桑原啓子／昭33政）。☎03・3988・3288（桜友会事務局）

櫻友クラブ主催の「唎き酒会」がオール学習院の集いで大人気!

去る4月16日に行われた「オール学習院の集い」。今年もすっかり恒例となった櫻友クラブ主催の「唎き酒会」が、西5号館1階の学生ホールで開かれました。

毎年各社の協賛により開催されていて、今年は八海醸造や梅錦山川、司牡丹酒造などが造っている銘酒が集まりました。来場された方は、思い思いに銘酒を選び、繊細な味の違いを味わうべく、唎き酒を楽しまれていたようです。

また当日は、5回の「唎き酒体験コーナー」を開催。専任講師に唎酒師の高城幸司・礼子両氏をお招きし、専門家による楽しい唎き酒体験も行われました。来年もぜひご期待ください。

桜友会の賀陽会長も美酒を片手にご満悦

今年も西5号館の学生ホールで開かれました

第9回櫻友クラブゴルフ大会開催

第9回ゴルフ大会は、過去最多の46名の参加者を集め、4月27日に霞ヶ関ゴルフクラブにて開催されました。優勝したのは、新井康雄氏（昭36政）。プレー後のパーティーでは、全員が賞品を手にして、大盛況のうちに終了しました。

次回は秋開催を予定しております。今大会にあたりコースをご手配くださった山本様、賞品をご協賛いただいた各社の皆様に厚く御礼申し上げます。

プレー後、みんなでパチリ

櫻友クラブ主催「日本の伝統文化に触れる会」参加レポート

文豪達の愛した味を味わう会

明るく落ち着いたお部屋で開かれました、今回の日本の伝統文化に触れる会。
伝統ある日本食に、新しいエッセンスを加えたなだ万の懐石料理を堪能しました。
同窓の方々と話も弾み、とても和やかな雰囲気でした。

渓流に若鮎が躍りはじめる6月10日、品川にある「なだ万料亭　御殿山」で日本の文化に触れる会が開催されました。今回は、森鷗外や夏目漱石も食した、なだ万の懐石を味わう会です。

参加者は50名。会場となった「なだ万料亭　御殿山」は26階にあるため、晴れていれば丹沢山系まで望める場所ではありますが、この日は残念ながら雨まじりの天気。それでも大きな窓越しに広がる東京湾に、みなさん眺望の素晴らしさを口にしていました。

はじまりは定刻の12時。最初になだ万の常務取締役本部長・島田佳紀さんから、なだ万の名前の由来、懐石と会席の違いなどのお話、そして桜友会監事の大橋啓一さんの乾杯で食事がはじまりました。

次から次へと運ばれてくる料理。まずは目で楽しみ、次に口に入れたときの旬の香りを、そしてかみしめるほどに広がる味のハーモニーを堪能する、と、まるで一品一品に物語があるようでした。会場の内では「どうしたらこんなお味になるのかしら」とか、「おいしくてすべて食べてしまうのがもったいないほど」などの声も聞かれました。

部屋では長い掘り炬燵式のテーブルに、初めて会う方々と隣り合うのですが、そのおいしさからか自然に話も弾みます。また、同窓ということからなつかしい学生時代の先生の思い出話なども出て、世代を越え話は尽きず、時間はあっという間に過ぎました。美食が場をなごませ、学習院という共通のものがあるお陰で話題が広がり、楽しいひとときを過ごせるのだと実感いたしました。

15時、桜友会常務理事高澤寛さんのお開きの言葉で、散会となりました。

なだ万料亭　御殿山
NADAMAN RYOTEI GOTENYAMA
住所●東京都品川区北品川4-7-36
御殿山ヒルズ　ホテルラフォーレ東京26階
昼食●11時30分～15時
夕食●17～22時
電話●03・3447・8855

学習院桜友会様御席

御献立

食前酒　荔枝酒（ライチ）

旬菜　無花果　サーモン
柚子味噌　巨峰
白芋茎　車海老
スープゼリー

椀　鱧豆乳寄せ
白瓜・じゅん菜・梅肉

造り　鱸　鮪　烏賊
あしらい

煮物　牛タン・冬瓜　桑煮
針葱　クレソン

焼物　鮒　西京焼
糸瓜　三ツ葉　身漫し
鮎寿司　丸十レモン
ワイン生姜

合肴　賀茂茄子煮おろし
とろろすりめ
赤・青唐辛子

御飯　生姜御飯

止椀　赤出し

香物　盛合せ

デザート　初恋　愛玉子　ミント

平成十二年六月十日

なだ万料亭
御殿山

REPORT 催事の報告

平成12年6月14日 第42回草上会総会
常陸宮華子妃殿下のご臨席賜り開催！

小雨に濡れた紫陽花が、色つややかに咲き誇る6月14日、常陸宮華子妃殿下のご臨席を賜り、第42回草上会総会が開催されました。場所はリーガロイヤルホテル早稲田。来賓の方々と、1～41回生148名集まり11時に開会しました。

開会の辞、奥津会長の挨拶、議事報告に続き、毎年各界著名人をお招きして開催される講演となりました。今回ご講演いただいたのは、NHKエグゼクティブ・アナウンサーの葛西聖司氏。お話しになられたテーマは「誘い～日本の芸能～」です。「日本人でありながら日本文化をよく知らない人が多い、もっと日本文化を大切にしよう」という内容を、能や歌舞伎などの舞台鑑賞の時のエピソードを交えながらわかりやすくお話しされました。

葛西氏の講演のあとは来賓の島津久厚院長と早川東三女子大学長の挨拶、そして賀陽治憲桜友会会長の乾杯で会食へ。会食がはじまると懐かしい短大時代の思い出話などで、会場はにわかに賑やかになり、あちらこちらで記念写真のフラッシュもたかれていました。

また、お食事がひと落ち着きすると、華子妃殿下がご翻訳されたご本を販売し、みずからお手渡しになられました。売り上げは日本動物福祉協会にご寄付なされました。

総会の最後は、草上会の歌を合唱。15時、第42回草上会総会はお開きとなりました。閉会後には会場の外で葛西氏の著書「名セリフの力」の販売も行われ、ご本にサインを頂く場面もみられました。

※

草上会では現在、バザーの出品のご協力をお願いしています。
バザー内容は下記の通りです。
日時●9月22日、11～14時。
場所●互敬会館　3階
募集内容●詳しくは草上会事務室までお問合わせ下さい。募集要項と出品リストをお送り致します。
締め切り●9月12日までに郵送または持参（7月28日～8月31日は草上会夏休みのため受け取り不可）。
問合せ●☎03-3203-6476（草上会事務室）

第45回 CWAJ現代版画展示即売会 10月20～22日に開催

クリフトン・カーフ、横尾忠則らの著名作家から新人作家まで、国内外207人の版画家の展示即売会が開催されます。

企画・運営などは、世界30カ国以上から集まる、CWAJ（College Women's Asssociation of Japan）の会員のボランティアによるものです。そのため入場は無料、展示作品の販売で得た純利益は、国内外の学生が対象のCWAJ奨学金と、教育プログラムに還元されます。

ぜひご来場を。

会場●東京アメリカンクラブ4階
（東京都港区麻布台2-1-1）
問合せ●☎03-3444-2167
（CWAJセンター）

岩城宏之氏のタクトで学習院OB管弦楽団が定期演奏会を開催!!

学習院OB管弦楽団の第41回定期演奏会が7月2日午後2時より、創立百周年記念会館正堂で開かれました。皇太后陛下のご逝去に際し、哀悼の意を示して、黙とうと昭憲皇太后から賜った『金剛石・水は器』が演奏されました。

今回指揮を務めたのは、学習院のOBで世界的な指揮者である岩城宏之氏（昭26高）。ウィーン・フィルやベルリン・フィルといった世界の名門オーケストラも指揮する氏がタクトをとるということで、会場にはたくさんの聴衆が訪れました。

まず1曲目は、ハイドン作曲の交響曲第82番『熊』。この曲は、岩城氏が初めてウィーン・フィルと共演した時に演奏した思い出の曲で、弦楽器のメンバーは氏の想いに応えるべく、大変な練習をしたとか。そのため、弦楽器のバランスがよいメリハリの利いた演奏でした。

続いて2曲目は、外山雄三氏が作曲した『管弦楽のためのディヴェルティメント』。岩城氏が外山氏に頼んで作ってもらったというこの曲は、「ドンパン節」や「ホーハイ節」など日本の民謡や童謡などのメロディーが数多く登場し、とても親しみやすい曲です。目をつむると日本の原風景が浮かんでくるような演奏でした。

そしてメインは、ストラヴィンスキーの『春の祭典』が演奏されました。難曲として有名で、アマチュア・オケはめったに演奏しない曲。岩城氏にこの曲の指揮を依頼したところ、しばらくの間絶句し、その後おもむろにOKしたというエピソードがあったほどです。団員の猛練習が実を結び、数々の難所もクリア。演奏終了後の盛大な拍手が、演奏の成功を物語っていたといえましょう。

次回の演奏会は、12月10日14時より百周年記念会館で開かれる予定です。

難曲『春の祭典』の熱演を終えた後のカーテンコール。満足感がみなぎる

明るく自由に楽しんでいるオケですね

学習院OB管弦楽団　常任指揮者
岩城宏之（昭26高）

学習院のOBオケとは切っても切れない仲で、数年に一度演奏をしています。ウィーンやベルリンのオケと違って技術的にはまだまだですが、アマチュア・オケとしてとてもいい雰囲気を保っている。なんだかそれが懐かしくて、また戻ってきたくなるんです。昔から比べてオケの技術はかなり向上しました。「今回が最後」と思っていても、仲間に会いたくなってついつい指揮台に立ってしまうんですよ。

Profile●学習院高等科卒業後、東京芸術大学音楽学部器楽科入学。昭和35年にはN響世界一周演奏旅行に同行し絶賛される。NHK交響楽団終身正指揮者、メルボルン交響楽団首席・桂冠指揮者、札幌交響楽団桂冠指揮者、東京混声合唱団音楽監督。

演奏会で配られたパンフレット

CAMPUS 学習院ニュース

9月中旬に完成予定の新部会室棟の愛称は「富士見会館」に決定!!

現在建設中の新しい課外活動の拠点「新部会室棟」の愛称が、このほど「富士見会館」に決定しました。「富士見会館」は、黎明会館の南にあった弓道場跡地付近に現在建設中で、9月中旬に完成予定。「友邦会館」や「晨風（しんぷう）会館」などの候補が挙げられましたが、その昔、建設地から富士山が望めたこととや、近辺に「富士見茶屋」という茶屋があったことに由来する「富士見会館」が愛称として使われることになりました。内部には多目的ホールや学生用のラウンジなどが設置される予定です。

正門から富士見会館までは歩いて5分程度

地下1階、地上6階建ての富士見会館は黎明会館とブリッジで接続

フランス会部OB会ワインの宴を開催

7月1日、目白の学習院創立百周年記念会館でフランス会部のOB・OG会が開催されました。フランス文学科同窓会杉山敦子会長（昭29仏）、現フランス文学科篠沢秀夫教授（昭29仏）ら草創期の主要メンバーから若手まで約70名が、フランス会らしくワインを傾けながら、フランス語劇を上演したそれぞれの昔をふり返りました。あらかじめさくらラウンジでの二次会もセッティングされており、13時スタートから延々数時間の会となり、終了後もかなりの人数が目白の街へと向かいました。フランス会部OB・OG会では、現在名簿を作成中ですが、当日欠席の方は添田麻里子（昭50仏）あて連絡を。☎03・3958・4752。

篠沢教授ら約70名が

第23回日本象牙彫刻展、上野の森美術館にて開催

6月10〜14日、上野の森美術館において日本象牙彫刻展が開催されました。今回は久しぶりに上野の森で開かれたとあって会場に訪れた方々も、上野に帰ってこられたと喜びの声を挙げる方も多く見受けられたのが印象的でした。

開催中の6月12日は高円宮殿下のご臨席を賜り、美術館に隣接する会場で優秀者の表彰式も行われました。高円宮賞、文部大臣賞などの各表彰者が名前を呼ばれると前に出て、緊張と喜びの表情で盾や表彰状を頂いていました。

表彰がすむと高円宮殿下が今回の展覧会の総評をおっしゃられ、そのあと受賞者の挨拶、来賓のご紹介と続き、閉会となりました。

閉会後には懇親会も開かれました。高円宮殿下もご出席になられ、来賓の方々や表彰者と親しくお言葉を交わされていました。

右は高円宮殿下。下は表彰式後のリラックスした受賞者の方々

MEMBERS 会員の新特典

櫻友クラブ会員に朗報! 首都圏に7つのゴルフ場をもつ「山田クラブ21」と提携。

この度、櫻友クラブは新たに首都圏に7つのゴルフ場を持つ山田クラブ21と提携いたしました。どのゴルフ場も、主要幹線道路に至近で非常に便利です。ぜひ皆様、お誘い合わせの上ご活用ください。

また、櫻友クラブ会員の方ではなくても、会員の紹介があれば桜友会員や学習院とは関係のない方でも、ご利用になれます。また、各コース各種企画・イベント（バスパック・宿泊パックなど）も実施しています。

● 平成倶楽部鉢形城コース
埼玉県大里郡寄居町大字鉢形字愛宕3212。関越自動車道花園ICより10分。

● レイク相模カントリークラブ
山梨県北都留郡上野原町桐原5000。中央自動車道上野原ICより15分。

● 山田ゴルフ倶楽部
千葉県山武郡松尾町下大蔵字牛ヶ谷790。東金道松尾横芝ICより7分。

● 南茂原カントリークラブ
千葉県長生郡長南町地引742。外房有料茂原より15分。

● 万木城カントリークラブ
千葉県夷隅郡夷隅町作田2。外房有料茂原より20分。

● 21センチュリークラブ富岡ゴルフコース
群馬県富岡市岡本1。関越自動車道富岡ICより5分。

● 日立高鈴ゴルフ倶楽部
茨城県常陸太田市白羽町1730。常磐自動車道那珂ICより20分。

≪予約・問合せ≫山田クラブ21。☎03・5766・0566。fax03・5766・0577。
≪受付時間≫月～金曜：9～18時。
土曜：9～12時。
≪料金≫下記参照。
※予約の際は、必ず「櫻友クラブ、またはその紹介」であることをお申し出ください。

平成12年　提携料金表

＊キャディ付ＩＲ４Ｂプレー、費用概算（昼食別）

		通常料金	7月	8月	9月
平成倶楽部鉢形城コース	平日	¥23,150	¥14,000		
	土曜	¥33,150	¥22,000		
	日曜・祝日	¥33,150	¥21,000		
レイク相模カントリークラブ	平日	¥23,200	¥14,000		
	土曜	¥34,200	¥22,000		
	日曜・祝日	¥31,200	¥21,000		
山田ゴルフ倶楽部	平日	¥22,150	¥12,000		
	土曜	¥34,150	¥22,000		
	日曜・祝日	¥34,150	¥20,000		
南茂原カントリークラブ	平日	¥22,450	¥11,500		
	土曜	¥32,450	¥20,000		
	日曜・祝日	¥32,450	¥19,500		
万木城カントリークラブ	平日	¥21,650	¥11,000		
	土曜	¥31,650	¥19,500		
	日曜・祝日	¥31,650	¥19,000		
21センチュリークラブ富岡ゴルフコース	平日	¥13,000	¥9,500（昼食付）		
	土曜	¥23,000	¥14,500	¥14,000	¥14,500
	日曜・祝日	¥23,000	¥14,500	¥14,000	¥14,500
日立高鈴ゴルフ倶楽部	平日	¥14,800	¥9,800（昼食付）		
	土曜	¥23,800	¥14,000		
	日曜・祝日	¥23,800	¥14,000		

※富岡ゴルフコースのみ乗用カートセルフプレー料金となります
（キャディはオプションで上記料金に¥3,000加算されます）。
※特別営業日（年末年始・お盆など）は別途料金になります。
※10月以降の料金につきましてはお問合せください。

①南茂原カントリークラブ②平成倶楽部鉢形城コース③21センチュリークラブ富岡ゴルフコース④山田ゴルフ倶楽部⑤レイク相模カントリークラブ⑥日立高鈴ゴルフ倶楽部⑦万木城カントリークラブ

列島通信北から南から

長野桜友会

NAGANO OHYUKAI

会員数1300人を超える長野桜友会。北信・中信・東信・南信の各支部で、同窓生のつながりを着実に広げている。

平成9年5月に行われた長野桜友会総会

21世紀の到来とともに創立20年を迎える長野桜友会。全国にある桜友会組織の中でも、会員数第6位の大所帯の桜友会だ。県全体の総会と県内4地域の支部の活動を通じて、結束を強めている。

長野桜友会は、昭和56年5月、寛仁親王殿下をお迎えしての公開講演会を機に設立されました。会員数は1300人を超え、全国都道府県別でも第6位と大所帯になっております。

長野県は、地形の上で縦に細長く、また北信・中信・東信・南信と4つに分かれており、なかなか全県で集まるのが難しい環境です。そのため、日頃の活動は各地域単位で各々の支部長を中心に行っております。

最近の県レベルでの活動といたしまして、平成9年5月に総会、12月に公開講演会を開催いたしました。総会におきましては約100人の出席、公開講演会につきましては500人を超える出席をいただきました。

講演会終了後の懇親会では、島津院長を中心に和やかに全員相互の親睦を図ることができました。これからも、会長・各支部長を中心に活発な活動を行っていきたいと考えております。また、長野県は観光資源に恵まれております。桜友会会員の皆さまのご来県をお待ちしております。その際には長野桜友会にご一報ください。歓迎いたします。

文／長野桜友会事務局
木内春夫（昭46済）

平成9年12月に開かれた学習院公開講演会のスナップ

会長からご挨拶

長野桜友会会長
藤松晃（昭33経）

長野県は昔から教育に熱心な県であります。国際化時代を迎え、日本にも世界中より多くの留学生・就職者・旅行者が訪れます。そういう人たちに日本の習俗・習慣を理解していただく上で、1～2週間、長野県内での「ホームステイ」を義務づけてはいかがかと思います。ドイツの「ゲーテシューレ（ゲーテ学校）」ならぬ「アルペンシューレ（日本学校）」であります。長野県は東に軽井沢・上山田温泉、北に善光寺・志賀高原、中信に日本アルプス・浅間温泉、南に諏訪湖・天竜川と名所が豊富で、日本を勉強・理解するのに快適な県であります。学習院卒業生は県内に1300名おります。素晴らしい長野県ですので「アルペンシューレ」を創設して、国際交流のお役に立ちたいと考えております。

COLUMN●桜友会ふるさと訪問

長野のいいとこ見つけた!

▲志賀高原の麓に湯けむりを上げる「渋温泉」。9カ所の外湯を巡る「渋温泉九湯巡り」は厄除けや不老長寿などのご利益がある

▼標高2000〜3000m級の山々が連なる「上高地」。立枯れの木立が神秘的な大正池や梓川に架かる河童橋など美しい風景が広がっている

▲約1300年前の開基と伝わる「善光寺」。御本尊は秘仏で、7年に1度開帳される。門前には名物の唐辛子を売る店などが軒を連ねる

▲信州の「塩の道」と呼ばれ、糸魚川と松本を結ぶ千国街道。道中には高遠の石工が刻んだという野仏が数多く、気軽に散歩が楽しめる

◀信州の名物といえばなんといっても「蕎麦」。県内にはおいしい蕎麦処がたくさんあり、食べ歩きも長野の旅の楽しみのひとつだ

便秘・軟便に、
ビフィズス菌2種＋アシドフィルス菌が効く!

3種の乳酸菌配合で、
腸をイキイキ、健康に。

便秘・軟便に
わかもと整腸薬

【効能・効果】整腸(便通を整える)、便秘、軟便、腹部膨満感(服用の際は、添付文書をよくお読みください。)
●ピン入り(90錠・240錠)
わかもと製薬

会員からのお便り紹介コーナー

OBLIGE 伝言板

本誌『オブリージ』についてのご意見・ご感想、企画のご提案、情報などをお寄せください。

櫻友クラブ 新規会員のご案内

平成5年に桜友会活動の活性化を目的に発足した櫻友クラブは、現在約1400名の会員を数えるまでに至りました。前回に引き続き、新たに入会された方々を紹介いたします。今後のさらなる活動のためにも、同窓のご友人、お仲間、後輩をお誘いくださいますようお願いします。

小島	敏武	昭33済
山東	直樹	昭36済
鈴木	昌明	昭41法
鈴江	浩之	昭51法
高橋	光秋	昭55済
中小路	義卓	平12数

＊平成12年6月30日現在

MAIL BOX 読者より

●今回は編集室に届いた、卒業生・学校関係者の著作物4点を紹介いたします。

東洋経済新報社刊
1600円＋税

学習院大学経済学部編の『経済・経営を楽しむ35のストーリー』は、まえがきにも「高校生へ」と書いてある通り、非常にわかりやすい経済入門書です。挫折してしまった経済の勉強も、この一冊でもう一度やり直してみたら……。

PHP研究所刊
1200円＋税

孫であり衆議院議員の麻生太郎氏（昭38政）が語る『祖父・吉田茂の流儀』。戦後の動乱期を生きた総理大臣・吉田茂の、家族へ向けた温かく、そして真摯な素顔。孫だからこそ、知ることのできた、本当の吉田茂が垣間見えます。

旺文社刊
950円＋税

テレビ東京のアナウンサー佐々木明子氏（平4英）の書き下ろしエッセイ『今日も取材日和』。多くのスポーツ選手とのふれあいや、ハプニング（?）などのエピソードがいっぱいの、読んでいて元気になれる一冊です。

ジャパン タイムズ刊
2200円＋税

ビジネスの世界もグローバル化していく現代、この『日本語キーワードで引く 英文ビジネスレターハンドブック』が役に立ちます。日本語の感覚を、そのまま英文で伝えたい時、参考になる便利な一冊。池崎美代子氏（昭48国）著。

櫻友クラブ会員の交流の拠点

赤坂プリンスホテル旧館をご利用ください。

赤坂プリンスホテル旧館1階の櫻友クラブラウンジと会議室は櫻友クラブ会員なら誰でも利用できる施設です。

●利用方法

①利用者は、櫻友クラブ会員のみ。同伴はOKです。
②利用者は、櫻友クラブカードを提示し、クラブ内の来場者名簿に記入する。
③利用料は会員500円、ビジターは1000円。飲食は館内から取り寄せ（学習院弁当あり）。原則、現金支払い。
④会議室の利用料は1万円。桜友会事務局に要予約。
⑤利用時間は、午前10時30分～午後10時30分まで。

【問合せ】桜友会事務局☎03-3988-3288
【連絡先】赤坂プリンスホテル旧館。千代田区紀尾井町1-2。☎03-3234-1111（代）

歴史ある館内で旧知のお仲間と優雅な時間を過ごしてみてはいかがでしょう

OBLIGE伝言板

お便りの宛先は、〒171-8588東京都豊島区目白1-5-1、学習院大学創立百周年記念会館内桜友会事務局櫻友クラブ。
本誌にとじ込みのはがきをご利用ください。

人物クローズアップ
学習院と私 VOL.8
あの頃のこと、この頃のこと

佐藤真左美

バレリーナ
(昭61短国入学)

「お客様が見て、楽しんでいただける舞台にしたい」と佐藤さんは言う

バレエをはじめた時は単なる習い事としてだった。だがバレエが好きという気持ちがオーストラリア留学で初めて一人暮らしをさせ、そしてプリマ・バレリーナに変身させた。今年の8月18〜23日、スターダンサーズ・バレエ団(☎03・3401・2293)の公演「くるみ割り人形」で主役の金平糖の精を演じる。

SPECIAL INTERVIEW

青山にあるスターダンサーズ・バレエ団の稽古場。
何気なく「こんにちは」と入って行ってしまった私が、うかつだった。
壁一面の明るい大きな鏡に映っていたのは、手長、足長、首すらり——
少女マンガから抜け出してきたような佐藤真左美さん
同じ人間で、どうしてこんなにレイアウトが違う?
ものすごくがっくりきたが、気を取り直し、お話をうかがった。

Masami Sato

学校とバレエの厳しい両立を強いられた女子部時代のニックネームは〝走れ、まあちゃん〟。

「初等科から女子部、学短と、ずっと学習院に通っていたのですが、なにしろあまり学校に行ってないもので、このインタビュー本当は少し面映ゆいんです」

5歳のとき、家の近所でもあったこのスタジオで初めてバーに触れ、足を動かして以来ずっとバレエの道を歩んできた佐藤さんである。特に、16歳で松山バレエ団最年少の団員になって以降は、学業との両立は半端ではない辛さだったという。

「私が16歳という若さで舞台人という道を選んだきっかけは、女子部高等科1年の1学期に松山バレエ団の訪中公演に参加したことでした。これを許可して下さった先生方には、本当に今でも感謝しています。もし女子部の先生方のご理解がなければ、私は違う道を歩んでいたと思います。もう時効だからいいと思うんですが、公演活動のためとは言わずに、田舎の親戚が亡くなったとか、今日は身体の調子が悪いとか、とにかく、ありとあらゆる言い訳を考えて、1週間の半分は早退してました。いつも急いでいて、ついたあだ名が〝走れ、まあちゃん〟。まず朝は、早退するんだから遅刻しちゃいけないと、正門から昇降口までダーッと走ってくんです。それで4時限目のブザーが鳴るか鳴らないかってときに、鞄を小脇に抱え、ごきげんようの挨拶もそこそこに走り出すんですよ。外の螺旋階段に靴を置いといて、西門から飛び出し、走って高田馬場まで行き、渋谷で乗り換えのときも走って、銀座線で表参道へ。制服脱いで、群舞ですから他のメンバーに『すみません、学校行ってきました』って謝りながら入ってゆく」

きついですね。

「ほんっとに毎日泣かない日はなかったくらいです。でも学校には初等科から一緒の仲良しグループがいて、彼女達だけは、私が嘘をつきながらも学校をやめたくないのを知っていて、ほんとにいろいろな意味で力になってくれました。もう時効だと思うからいえるんですが実は悪いこともいっぱいやったんですよ。地方公演から夜行で帰ってくると、東京駅で母が待っていて、持ってきてくれた制服に着替え、ふらふらになって学校行ったりすると、『あららぁ、まあちゃん、今日、大変』って気付いてくれて。授業の途中で『具合が悪いので連れて行きます』って保健室に行かせてくれるんです。そして熟睡してる私をブザーが鳴る寸前に起こし、また教室に連れて帰ってくれるんです。始業時にいれば遅刻にならないし、終了時にいれば早退きにならないので、ね。女子部から短大に進む試験

数々の舞台でさまざまな主役を踊ってきた

踊りだけではなく演技力も要求される

「バレエって意外にハードなんです」と。オーダーで作るトーシューズは何足も履きつぶしたそうだ

佐藤真左美（さとう・まさみ）
昭和42年東京生まれ。同48年スターダンサーズ・バレエ・スタジオ入団。同49年学習院初等科入学。女子中・高等科を経て、同61年学習院女子短期大学人文学科（国文専攻）に入学。この間昭和54年松山バレエ学校入学。同58年松山バレエ団入団。松山樹子、清水哲太郎、森下洋子に師事。平成4年には文化庁在外研修員としてオーストラリア・バレエ団に留学。同6年、正式団員として契約を結び、海外公演を含むすべての公演に出演。翌7年帰国後、平成8年よりスターダンサーズ・バレエ団にて活動を再開、現在に至る。

は夏休み明けすぐなんですが、高3の夏は、1カ月間、ロンドン公演だったんです。そしたら『これだけは押さえたほうがいいよ』って、試験に出そうなところをルーズリーフにまとめてくれました。『ロンドンに持ってきなよ』って」

結果は、40点の合格ボーダーラインを秋の第1回は42点、お正月明けの第2回は41点ですれすれセーフ。

「『あなた、合格よ』とおっしゃった先生のお顔、忘れられません」

今でもその時のお友達との行き来はあるんですか？

「それぞれ忙しいですから、しょっちゅう、会うわけじゃないんですが、公演は必ず見に来てくれます。これが、毎回詳しくアドバイスしてくれるんです。長いこと見続けてくれてるだけに。『だんだん年とってきた』とか『今回は少し痩せすぎてた』とか『そうでない役どころはないのか』と。一つの世界でずっと生きていると、考え方が偏狭になってしまいがちでしょ。行き過ぎそうになると、自然にブレーキをかけてくれてたんじゃないかな。いつも〝普通のバランス〟を思い出させてくれる。それでいてさりげなく応援してくれているんです」

平成4年には文化庁在外研修員として、オーストラリアバレエ団に留学し、同6年からソリストとして団員契約し、各国ツアーで活躍した。

「オーストラリアバレエ団はイギリス系なので、とても大きいクラシックバレエ団なんです。団長やスタッフがいて、会社があり、ダンサーが月給をもらい生活することが成り立っている。行ったその日から『10時半から18時半の就業時間をダンサーとして働いてください』って言われたんですよ、まだ住むところもろくに決まっていないのに。えっ、今日からと驚いた反面、日本ではダンサーが、企業の社員と同じようにIDをもてる職業分野ではありませんので、うらやましかったです。日本でも企業の社員と同じようにIDを持てる職業としてのダンサーの地位を確立できれば、と思っています」

オーストラリアでは芸術監督のマイナー・ギールグイットをはじめ、多くのすばらしい出会いに恵まれた。

「私、行くところ行くところでいい先生に巡り会うんです。おおむね厳しい先生なんですが。そうそう、短大生になったとき、初めて女子部の先生を白鳥の湖の公演にご招待したんです。そしたら終わったあと先生が『あなたは、学校の規則は守れなかったのに、24人がきちんと縦にきれいに並んで踊るのは上手ですね』って。一所懸命に嘘ついてるつもりでしたが、先生方、気がついてらしたんですね」

少女マンガの主人公のようなプロポーションを持つ佐藤さんだが、マンガのようにはいかない人間の身体の限界と、だからこその可能性を知り尽くしているはずである。今、多くの子供たちを教える立場にもある彼女は「身体って、こんなふうに動くんだよって知らせたい」と言う。絹のように柔らかく鋼のように強靭な身体と心を持った佐藤さん。彼女は教えている子供たちとともに、彼女自身もバレリーナとして、次へのステップを進んでいるようだ。

同級生はプリマ！

坂本安子（平2政）

初等科生の頃から、顔がとても小さく手足が長い、抜群のプロポーションでした。バレエを習っている佐藤さんが、バレリーナのまあちゃんになり、あっという間にプリマ・バレリーナの佐藤真左美さんになりました。

私たちは青山で育ちました。学校から帰ってもおやつを食べる時間がなく、チーズをかじりながら走る真左美さんを、下校途中のバスの中からよく見かけました。そのたび私は、バスの窓を開け、「まあちゃん、いってらっしゃい」と大きな声で叫んだものです。

10年前に、上野の東京文化会館の公演で「ジゼル」の主役を踊られた時は、自分が主役に選ばれたかのように嬉しく思いました。会場には同級生やお母様方も大勢集まり、まるで同窓会のようでした。そんな私たちに真左美さんは、「バレエを続けてこられたのは学習院のお友達のおかげ」と、よく口にします。

昨年の冬には「エリート・シンコペーション」の舞台で、熊川哲也さんと共演。お二人の技術の正確さはもちろん、ユーモアと雰囲気のある舞台を見て、外国のバレエ団での経験は、このように芸の厚みとなって出てくるのだと実感しました。

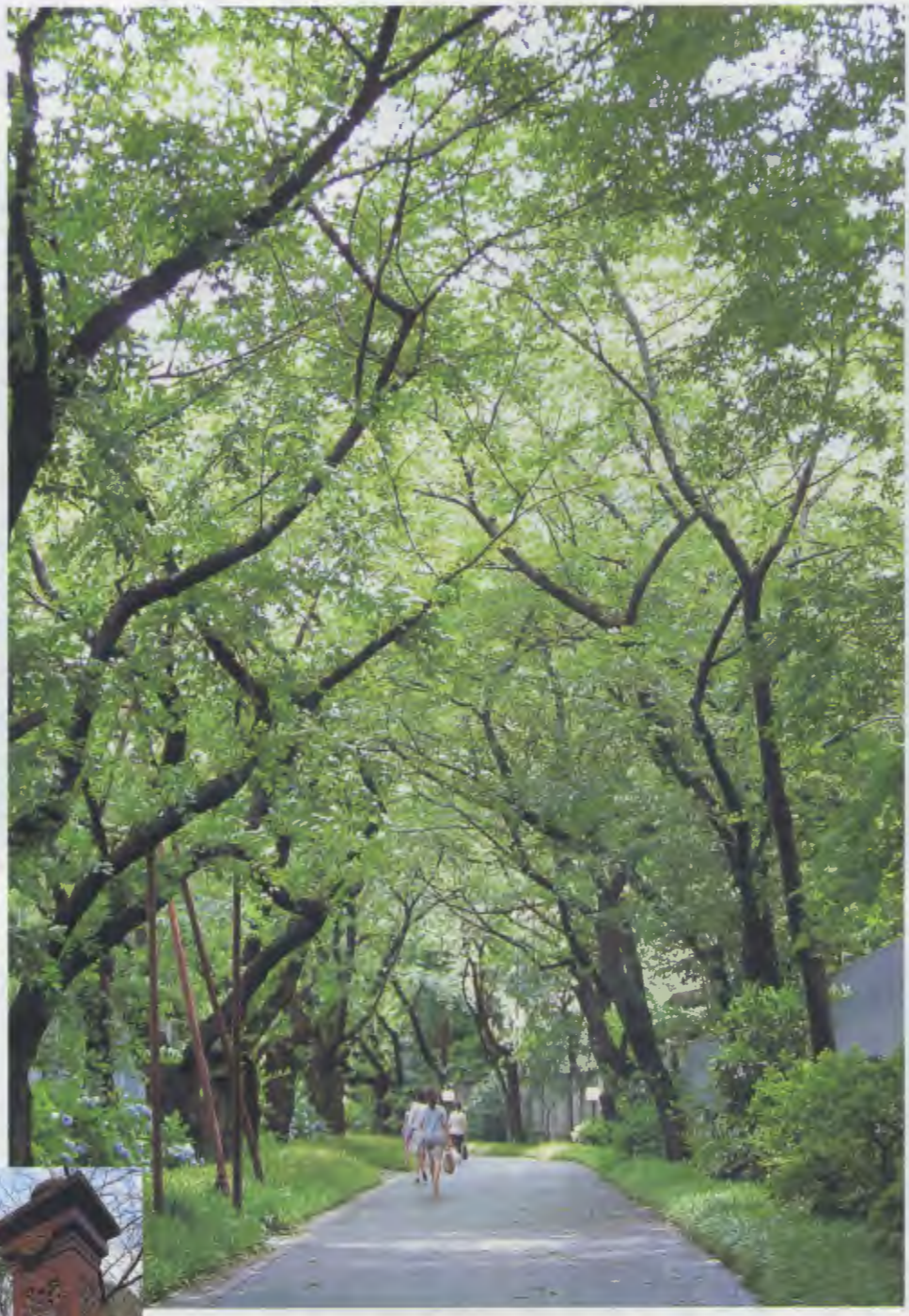
真左美さんはどのような役でも踊ります。繊細なジゼル、可憐な「くるみ割り人形」の金平糖の精、性格が真左美さんにそっくりな「コッペリア」のスワニルダ、ため息が出るほど美しいジョージ・バランシン振付の「セレナーデ」。どの舞台も好きですが、最近のお気に入りは「ウエスタン・シンフォニー」や「オッフェンバック・イン・ザ・アンダーワールド」などで踊った酒場にいる女性の役。ひと味違った魅力があります。

じつは、真左美さんも私もワインが大好き。よく食べ、よく飲み、よく笑う。黙っていればお美しいのですが、本当は明るく愉快なプリマドンナなのです。

取材・構成／松尾裕美（昭60心） Photographer／Hideki Shiozawa

学校法人シリーズ　母校を訪ねる

「学習院女子大学」



神田錦町時代の学習院の旧正門（重要文化財）と、それに続く桜の回廊

重厚な鉄の門をくぐり、木漏れ日の射す桜並木を通り抜ける。そこに世界につながる扉がある。あとは自分の力で、その扉を開くのみ。

訪ねた人
田村麻衣子（平7短国）
Photographer/Yuya Yamasaki

GAKUSHUIN

日本文化の発信地

世界への窓となるべく前進する女子大学

学習院女子短期大学の第1回卒業生（昭和27年3月）

戦後女性教育の、ひとつの時代を作り、そして次代に道を開いた。

戦後、学習院における女性教育の始まりは昭和23年に開設された女子教養学園である。現在の学習院女子大学（平成9年度までは学習院女子短期大学）の直接的な前身とはならなかったが、学習院の女性教育の基礎を形作った。

この教養学園は、戦後、焼け残った校舎などを使用して苦しい財政状況を打破するために構想された。昭和23年5月1日に160名の新入生を迎え開校式が挙行され、教室を現在の目白の東別館に置き授業が開始された。昭和24年には昭和寮の本館に洋裁別科が増設され、以前からあった課程を教養科とした。

しかし、この教養学園の存在期間は短く、昭和26年には「学習院大学の新学科増設に伴う新校舎建築の資金を得るため昭和寮を売却することになり、教室がなくなる」「昭和25年度に短期大学部が設置され、教養学園の目的と一部重複する」の2つの理由により、昭和27年3月で廃止が決定した。

女子教養学園の発足後、社会の動きは女子も高等学校以上の教育を受けるべきだという方向に動き出していた。そこで学習院もこの動きに対応し、女子短期大学の設置準備に入った。一時、諸事情により中断したが、女子高等科生の父母の後押しにより昭和25年4月の開設が決定された。場所は当初、目白へという意見もあったが、最終的に女子中・高等科と同じ戸山校地となった。

短大設置の最初の準備委員会が昭和24年7月11日に開かれ、天野貞祐委員長のもと、活発な準備活動が行われた。時間的な制約もあり、3カ月後の同年10月10日付で文部大臣宛に「学習院大学短期大学部設置認可申請書」を提出した。この後、より具体的な準備と手配のために昭和25年1月9日に第1回開設委員会が開かれた。同月14日には大学設置審査委員会の実地視察があり、提出した「申請書」への一部変更の指示により、改めて昭和25年1月28日に「設置認可申請書一部訂正」を提出し、3月14日、学習院大学短期大学部設置認可が下りた。

同年4月28日、講堂で開学式を行い5月4日に開講した。当初は文学科の国文学・英語の両専攻により開講されたが、その時点ですでに生活科学科設置準備委員会は設置されており、追って昭和26年度から名称を「家庭生活科」として増設された。

その後、昭和28年6月1日に学校の名称も、4年制大学の一学部と混同される恐れのあることと、女子のみの大学であるということから「学習院女子短期大学」と変えられた。

この戦後一貫して女性教育に力を注いできた学習院女子短期大学は、平成10年4月、学習院女子大学にその役割を渡した。

語り継がれるべき名前として、学習院女子短期大学は残る。

昭和28年頃の学習院祭の風景。女子大では雅祭と名称が変わった

昭和51年当時の短大図書館入口

夏目漱石の門下生で、学習院大学短期大学部初代部長（のちに学長）の小宮豊隆

昭和29年頃のブライス教授の授業

昭和34年頃の郷千枝子教授の食品研究の授業

学習院女子大学・女子短期大学年表

昭和22年（1947）	学習院・女子学習院が合併し財団法人学習院が発足
昭和23年（1948）	学習院女子教養学園開設
昭和25年（1950）	学習院大学短期大学部が文学科国文学専攻・英語専攻の２専攻で発足
昭和26年（1951）	組織を改組し学校法人学習院となる 家庭生活科を増設
昭和27年（1952）	学習院女子教養学園を閉鎖
昭和28年（1953）	栄養士養成課程を設置（昭和34年度入学者で廃止） 文学科を文科と改称 ６月１日、短期大学部を学習院女子短期大学と改称
昭和29年（1954）	短期大学３号館が完成
昭和36年（1961）	短期大学２号館が完成
昭和39年（1964）	『学習院女子短期大学紀要』創刊 11月、学習院女子短期大学学会が発足
昭和44年（1969）	文科を廃止し、国文学専攻・英語専攻を新設の人文学科へ移し文化史専攻を増設
昭和47年（1972）	短期大学１号館が完成
昭和48年（1973）	短期大学５号館が完成 和寮が開寮（昭和52年度閉鎖）
昭和53年（1978）	10月18日、天皇・皇后両陛下はじめ皇族方をお迎えし、学習院創立百周年記念式典を挙行
平成10年（1998）	学習院女子大学を国際文化交流学部日本文化学科・国際コミュニケーション学科の２学科で開設

短大時代の思い出

草上会会長
奥津好恵

昭和36年4月、私が学習院女子短期大学に入学した年です。幼かった頃、私の家族は東京のいわゆる文教地区と言われるところに住んでおり、小学校から高校まで男女共学の附属に通っておりました。そのため女子だけの短大は私にとって興味深いものでした。弟が高等科に在学中であったこともあり、おしとやかさに欠ける私を嘆いた母のたっての願いでもあり入学致しました。当時の院長は安倍能成先生でいらっしゃいました。多分入学式だったと思いますが、次のような言葉が大変印象に残っております。「学習院女子短期大学は、国際的に活躍できる子女の育成をモットーとし、皆さんには、日々の生活が常に質素であることに心掛けていただきたいと思います。あなたたちも将来結婚式をあげることになると思いますが、決して華美な結婚式をあげることがないように。質素に心掛けて、もしも余ったお金があるならば、恵まれない国の子供たちの未来のために寄付をしていただきたいと思います」。とても心に残るお話でした。私たちの時代には、標準服というものがあり、卒業式も謝恩会もこれで出席を致しました。春には桜並木のトンネルをくぐり、芝生でお昼をいただいた日々。岡本先生。原先生。中田先生のお授業が走馬灯のように浮かび、また国劇部の活動を通して、私の人生の中で無二の親友にも出会うことができた短大時代は、とても貴重な日々であったように思います。

写真提供／湯本和子氏　短大史編纂室

互敬会館の学生食堂。1・2階が吹き抜けの明るい雰囲気

事務室や外国語の授業に使われる教室などのある国際文化センター

学生食堂などの入る互敬会館。学生たちの憩いの場となっている

神田典城教授の日本文学論Ⅰ（上代）の授業

新しく開かれた、世界への窓として学内が大きな国際交流の場となる。

平成10年4月、学習院女子大学は国際文化交流学部の1学部、日本文化学科・国際コミュニケーション学科の2学科で開学した。

学部名が表しているように、日本文化を見直し、世界に向かって日本、そして文化を発信していけるような人材を育てるという目標の下、学習院女子大学は発足した。初めに各学科について見てみたい。

日本文化学科は、日本文化を比較文化論・生活文化論・伝統文化論の3つの視点でとらえ、日本を内側から見直していく学科である。この日本文化学科と表裏一体をなしているのが国際コミュニケーション学科である。こちらは、国際関係論・コミュニケーション論・比較文化論の3つの視点で、日本と世界を比較しながら日本文化の位置付けを再認識していく学科である。どちらも、国際文化交流学部として、日本文化を再認識しようという考えの下に立つ学科であるが、方法論の違いによりどちらかの学科を選ぶことになる。

また国際交流という目的の中で、ただ学問としてだけではなく、世界中から留学生を受け入れ、彼女たちに日本文化を知ってもらい、また日本人の学生には彼女たちと接することにより世界を体で感じられるようになっている。現在、女子大学では世界各地の提携校からの学生や、個人での留学生など、49名の留学生が学んでいる。受け入れと同時に、学習院の側からも交換留学生として毎年数名が海外の大学へ留学できるようになっている。

学習院女子大学には2つの大きな特長がある。一つはセメスター制という、授業を半期で終了する制度である。これは、様々な科目を履修し、視野を広げることができると同時に、入学時期の異なる海外の学校へ留学しやすくする目的がある。そして、もう一つは留学生をはじめ、社会人入学者や全国各地の出身者を積極的に受け入れることで、バックグラウンドの異なる人と出会い、様々な価値観を知ることができるということである。大学自体が多くの交流の場となっている。

また学生数は1学年につき短大時代の半分に減っているため、より一層の小人数教育が可能となった。まだ4年制に移行して全学年が揃っていないため、現在の3年生が卒業して就職する時、学習院女子大学の真価が問われることになる。

この女子大学を開設するにあたって、先頭に立って力を尽くしたのが近藤不二前学長であった。しかし残念ながら、大学発足後、平成10年9月に学長を退任し、その直後10月30日に亡くなられた。現在は、前学習院大学学長の早川東三先生がその任にあたり、女子大学をより一層発展させるべく尽力されている。

人に伝えることのできる人
伝えることの喜びを知る人
それが学習院女子大学生

右は4号館の建物裏にひっそりたたずむ、近衛騎兵連隊の兵舎であることを知らせる石碑。下はその旧兵舎の外観。内部には教員研究室などが並んでいる

左は現在の短大・大学図書館。下は内部。ここでは毎年、「本に囲まれた音楽会」が開かれている

女子大学長
早川東三先生に聞く

自由な4年間を大切に

明るい日差しの入る、女子大学長室で早川東三先生にお話を聞いた。

最初に女子大学としての教育方針を教えてください。

「一番の基本はやはり、『広い視野、逞しい創造力、豊かな感受性』という、学習院の教育3本柱です。その上に立って、日本女性という自分の存在を再認識してもらいます。そして日本文化の深さを認識し、知識として、学生一人一人の中に組み入れてもらうことです。学習院は華族女学校に始まる女子教育に対する長い伝統があり、それだけの素地は十分にできあがっています。

このような日本の文化は女性が支えてきたと言ってもよいと思っています。日本の女性は昔から、識字率が非常に高かったんです。おそらく世界一だったのではないでしょうか。明治以後の発展も、女性による家の中からの近代化によってスムーズに進めることができたのだと思います。これらの知識を今、一般教養として受け継いでいかなければなりません。

そして、これは男女問わずですが、癒しの存在にならなければいけません。特に女性は母性を持ち、より大きな可能性を持っています。今、世界中が多くの不幸に苦しんでいる時、教養のある女性は救いになっていくでしょう」

この時期に短大から4年制に変わった意義は何ですか。

「一言で言うならば、女性の高学歴志向に対応したということです。現在、全体的に大学への進学率が伸びていますが、それを支えているのは女性の進学率の伸びです。特に法学部など社会科学への志向性が高まっているようです。短大時代には大学の法学部へ編入する学生が年ごとに増えていました。それらの学生を女子大学で吸収していこうということです。そして、共学ではない女子大学である長所は、独立心が養われることです。共学の場合は、どうしても力仕事など男子学生に頼ったりする場面がありましたが、女性だけではそれができません。だから女性である感性を生かしてそれを補う必要が出てくるわけです」

これからの女子大学の展望を教えてください。

「まず第一に、ハード面を充実させていきたいと思っています。学生がゆったりと安心して勉強できる環境、そして魅力的なキャンパス作りをしていこうと思っています。その一方で教育方針を学生にも理解してもらい、定着させ、スペシャリストを養成していきます。場合によっては大学院も視野に入れて考えていきたいと思っています」

最後に学生さんへ一言お願いします。

「本当は様々な本をたくさん読んでください、と言いたいところですが、今は何よりも大学生である4年間を大切に過ごしてくださいということです。長い人生の中で、本当に自由に勉強できる期間というのはこの時しかありません。この時の経験がいつか光を放つ時がきます」

越前漆器&若狭塗 [福井県]

町で気軽に入ったレストランで、簡単に出会える福井県。
それが越前漆器であり、若狭塗である。
いつの間にか深く私たちの生活に入り込んでいる。
でも、それがなぜか心地よい、それが伝統工芸と
呼ばれるものの懐の深さなのだろう。

写真／水野真澄

工芸品から日常に使用するものまで、多種多様な越前漆器

越前漆器の伝統の技を伝える絵巻物と、その製造過程を実物で展示（鯖江市・越前漆器伝統産業会館内）

「食卓を飾る」ECHIZEN-BRAND

小浜市にある「箸のふるさと館」内に展示されている約3000種類の箸。若狭塗だ。福井県の塗り箸はシェア全国一である

福井県は京畿の文化圏から近かったため、工芸技術の伝播も早く、見るべき伝統的な工芸品が古くからあった。また、江戸時代以降には北前船などで経済的に潤ったという背景を持ちつつ、その技術に一層の磨きをかけていった。ここでは、その代表的なものを見ていこう。

伝統工芸品というと、なんとなく高価で実用には使いづらいという印象が強いが、越前漆器は違う。実は福井県は知る人ぞ知る漆の国なのだ。現在でもレストランや旅館などで使われている漆器のほとんどは越前漆器が占めている。この意外なほど身近な越前漆器は、第26代の継体天皇に冠の塗り替えを命じられたことから始まったという由緒正しい漆器なのである。このような長い歴史に培われた技術の上に成り立ったのが、もう一つの塗り「若狭塗」である。こちらは、時代は下って江戸時代初期の寛永11年（1634）に小浜藩主となった酒井忠勝が、地域振興のために漆器作りを奨励したのを始まりとしている。

そして福井を代表する伝統工芸としてもう一つ忘れてはならないものに、越前和紙がある。こちらもやはりその歴史は古く、1500年前にまで遡るという。この越前和紙は、その品質の良さから歴代の領主から保護を受け、高級和紙の産地として発展してきた。現在の紙幣に入っている透かし技術もここで開発されている。明治初期には当時の太政官札も漉いたことがあるという。

この他にも水上勉の小説で、全国的に知られるようになった越前竹人形、日本六古窯の一つに数えられる越前焼、南北朝時代にまでその歴史を遡る越前打刃物など多くの伝統工芸品が福井県にはある。

一面漆の天井!!

天井一面に張られた蒔絵パネル。1枚1枚違う模様が施され、その技術と美しさには目を見張るものがある。元々、越前漆器は仏事などに使う「片山椀」と呼ばれる素朴なお椀であった。これに京都の蒔絵、輪島の沈金の技法などが入り美しい装飾性を持つこととなる。その美しさの中に温かみを感じさせる天井蒔絵は、越前漆器始まりの記憶を残している。

越前ブランドの伝統的「美品」

旅のお持ち帰り

越前和紙

越前和紙の里、今立町には20人余りの和紙を漉く伝統工芸士がいる。次第に薄れゆく伝統の技を継承すべく、日々、冷たい水に手をひたしながら紙漉きを続ける。静かな今立の町には熱い伝統に込める心がある。「透かし」の技術を最初に開発したのがここだった。伝統を守る心は、身を固めることではなく、より自由に解き放つことであった。

この「曇流し」の技術は平安時代から伝わる

越前和紙で作った紙人形「連獅子」

越前竹人形

良質の竹の産地である福井県には古くから竹工芸品が作られていた。その職人たちが趣味で竹の端材を使って作り出したのが越前竹人形である。竹人形はその素朴さと、作者たちの熱意により福井を代表する特産品になっていった。竹のしなやかさと強さが、そのまま人形にも生かされ、独特の表情や動作を作り出している。

髪をなびかせ天を見上げる竹人形「笹鳴り」。丸岡町・越前竹人形の里で

越前焼

日本六古窯の一つに数えられる越前焼。始まりは平安時代に遡るが、それが北陸最大の窯業地になっていくのが室町後期である。この時期には長さ30mもある巨大な窯がいくつも造られ、島根県から北海道まで日本海沿岸各地で越前焼が使われていた。江戸中期から近代にかけて一時衰退したが、越前陶芸村（宮崎村）の建設とともに再び力を取り戻した。

鮮やかな藍色をした越前焼のビアマグ

和食に合いそうなワイングラス

グッドデザインマークにも輝いたオリジナル包丁

越前打刃物の代表、鎌には様々な型がある

越前打刃物

日本で最初に刃物として国の伝統工芸品に指定されたのが越前打刃物である。その歴史は約700年前にまで遡る。京都の刀鍛冶が移り住み農作業用の鎌などを製作したのが始まりである。それを、越前の漆かき職人が、漆を求めて歩きながら全国にその名を知らしめたという。武生市が代表的産地。

〈福井県の観光問合せ〉福井県東京事務所☎03・3504・1738

特別企画

目白の森の夏の写真館

MEJIRO

『心の中の夏休み』

揺れる木もれ日、立ちのぼる夏草のにおい。
夏の熱気の中で、いつか見た光景が夢のように立ち現れては消えていく。
目白で、目白の森の中で、遠い時の声を探しながら。

●かつての学生寮を教室に改修した東別館。木の感触が懐かしい
●現在史料館として使われている北別館。明治42年建築の建物だ
●乃木館。学習院が全寮制だった頃の寄宿舎の一部。第10代院長である乃木希典は明治41年開寮のこの寄宿舎で学生と寝食をともにした

Photographer／
Shirobei Kawachiya

どこへつづくのか、校舎の裏の小径は記憶をたどるようにカーブして。

●ここが都心かと思わせるうっそうとした緑の森。鮮やかな緑の葉とはい上がるツルが夏の若々しいエネルギーを感じさせる。血洗いの池の周囲をめぐる道の脇で対面した

MEJIRO
『心の中の夏休み』

○目白の名所・血洗いの池。このすぐ近くを山手線の電車が走っているとは思えない光景。ただ水があまりきれいでないのが気になる。何とかならないものか
○硬式野球場への道。何げない道が懐かしい
○理学部の裏から馬場へ下る道の途中で出会った光景。理学部の裏あたりは富士見台と呼ばれており、江戸時代には富士見茶屋という茶屋があったという

○第11回オール学習院の集いを記念して植えられた桜の木。北別館横で

○通用門から体育館の裏へつづく道

○血洗いの池へ下る道。学校の構内とは思えない

通用門である西門を入る。学生時代なら、授業のある教室かたまり場である輔仁会館、あるいはサークルの部屋へ直行ということになるのだろうが、卒業して何年もの時を経た今は、居場所がない。

そこで、ピラ校や各校舎はパスすることにして、校舎の裏道へ。授業をさぼっているようなうしろめたさと解放感を思い出しながら、まずは血洗いの池へ。

輔仁会館の裏あたりから坂道を下る。あまり手入れがされていないせいか、池への道は、夏草が茂り、都心とは思えない自然状態。間もなく木もれ日に揺れる水面が見えてくる。ここか、ここは知っているな、と思う。何年も前のことがよみがえってくる。演劇部が発声練習をしていたり、運動部がランニングをしたりしていた。それを眺めている自分がいた。

久しぶりに訪ねたキャンパスは、それほど変わったというイメージはない。しかし、すれ違う学生たちを見ると、ちょっとした違和感を感じる。ホントに自分がここにいたのかという小さな気持ちの揺れ。

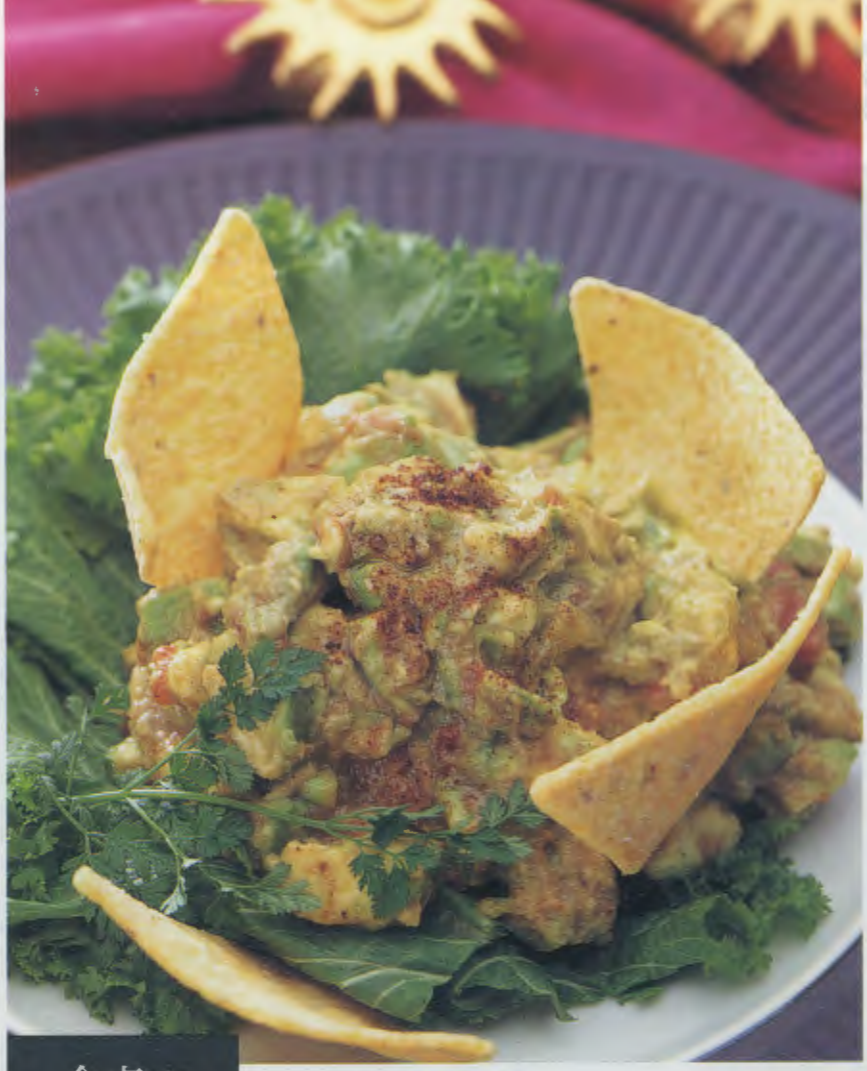
『学習院大学五十年史』が刊行されました

昨年刊行された「写真と図録」に続き、「学習院大学五十年史」上巻が刊行されました。京都の学習院から書き起こし、戦後学習院の復興、大学の開学、そして各学科の発展、安保闘争、昭和38年までの道筋を書き進めています。下巻は平成13年度刊行予定です。問合せは学内の成文堂☎03・3981・9718まで。頒布価格3500円(税込)。郵送も受け付けます(送料別)。

○昭和24年の大学開講式が行われた西一号館。当時は文政学部の校舎だった

■桜友会情報出版委員会
担当副会長
亀井　泓（昭24高）
委員長
畑中　茸雄（昭38化）
オブリージ編集部会長
池田　浩規（昭33政）
編集チーフ
吉江　隆信（昭50仏）
スタッフ
近藤　麻紀（平3短家）
前川　弦信（平8営）
冨岡　哲也（平9法）
五十嵐匡一（平10史）
小林　雄太（平10史）
田村麻衣子（平10独）
高野麻結子（平11仏）
中村　貴志（平12物）

[オブリージ] Summer No.30
Oblige
2000年7月25日発行
発行人／賀陽治憲
発行所／桜友会
〒171-8588
東京都豊島区
目白1-5-1学習院内
☎03・3988・3288
編集人／池田浩規
印刷所／共同印刷



森のバターと呼ばれるほど栄養豊富で、ビタミン・ミネラルなどがバランスよくふくまれている。脂肪は8割が不飽和脂肪酸なので、血液中のコレステロールを減らす働きがある

食卓の四季 VOL.11

アボカド
AVOCADO

江上種英（昭60経）
えがみ・たねひで／昭和38年東京生まれ。江上料理学院主幹。食品食材のコーディネートに従事。「日刊スポーツ」「小説すばる」「久保田通信」などにエッセイを執筆。

ロスアンゼルスからカンクンに向かう飛行機は、ヴァカンス気分の人々であふれていた。機体が高度を下げるのにしたがい、つき抜けた青空ときらきら光る海が窓一面に広がる。海上に細長く連なる砂浜には豪華なホテルが立ち並んでいる。

ユカタン半島の先端に位置するこのリゾートは、神が人類のために与えた究極のリゾートと言われ、高い晴天率を誇っている。しかしこの地は、70年代にメキシコが外貨獲得のために綿密にリサーチして選んだのだ。

カンクンから西に2時間半、マヤ文明の巨大な古代都市チチェン・イツアが忽然と現れる。世界遺産に認定されていて、多くの科学者がこの遺跡のなぞを解こうとしたが、ほとんどベールにつつまれたままだ。熱帯の密林に守られていたからこそ、1600年の時を超え、現代まで残りえたのだろう。メキシコは密林か砂漠のきびしい自然の国なのだ。

カンクンのリゾートのプールサイドで、テキーラサンライズをオーダーした。サイドディッシュはアボカドとトマトのサラダ。アボカドもトマトも南米が原産で、厳しい自然の中で育ったものが一番おいしいという。ピリリとしたサルサを加えて、タコスとともに食べれば、濃厚な果実の風味が広がる。

潮風に吹かれて波の音を聞いていると、いつのまにか眠ってしまった。気がつくと空になったグラスの向こうに、カクテルと同じ色の夕日がひろがっていた。

HOW TO COOKING

■グアカモーレ

①アボカドは種と皮をとり、すぐにライム（またはレモン）をかける。
②トマトは湯むきにして種と皮をとる。
③玉葱、にんにくは細かいみじん切りにする。
④アボカドとトマトを1㎝の角切りにし、③を加えつぶすようによく混ぜる。
⑤サラダ油少々と塩・砂糖で味を調え、よく冷やす。
⑥好みでサルサソースを加える。

Photographer／Ohuchi Mitsuhiro　協力／江上料理学院

SAVINGS
セービング
品質にこだわり
価格を追求しました。

毎日使う物だから、実質主義の本格派。

原料素材を厳選し、環境にやさしい袋入りだから実現した低価格。
毎日の料理作りを楽しむ人のための実質主義の本格派スパイスです。

セービングの詰め替え調味料シリーズ（便利なチャックシール付）各98円

あらびきコショー
30g
ブラックペッパーとホワイトペッパーをミックス。あらびきですので歯ざわりが良く、挽きたての香味をおたのしみいただけます。

コショー
30g
強烈な辛味とさわやかな芳香のブラックペッパーと上品な香りのホワイトペッパーをミックスしました。

ガーリック
30g
香味豊かな粒状のガーリックです。幅広く料理をひきたてます。

月桂樹の葉
6g
さわやかな清涼感を持ち、煮込み料理などの味と香りをひきたてます。

一味唐がらし
30g
辛味、香りの強い天鷹唐がらしを直火焙煎した、風味豊かな唐辛子です。

七味唐がらし
30g
風味豊かな唐がらしに紀州産の山椒等をほどよくブレンドした、香り高い七味です。

商品のお求め、お問い合わせはお近くのダイエーで。（一部取扱っていない店舗もございます。ご了承ください。）
掲載の表示価格は、消費税抜きの価格です。ご精算時に消費税をあわせてお支払いください。

お問い合わせは、株式会社ダイエー　TEL.03-5968-6840まで（午前10時～午後5時、土日除く）

インターネットでダイエーの情報をご案内しております。ホームページアドレス　http://www.daiei.co.jp/

Daiei

「オブリージ」NO.30
2000(平成12)年7月25日発行 年4回25日発行
発行/学習院桜友会「情報出版委員会」〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 学習院同窓会桜友会事務局内 ☎03(3988)3288

明石海峡大橋

そのベース、鹿島メイド。

世界最長の吊り橋を、海底で支える主塔の基礎。
人々の生活を変えたこのビッグプロジェクトを支えたのは
鹿島の最先端技術でした。

100年をつくる会社
鹿島
KAJIMA CORPORATION
本社:東京都港区元赤坂1-2-7 〒107-8388
ホームページ http://www.kajima.co.jp/